

子供のキャリア観と 親の働く姿に関する調査 (中学校1-3年生編)

株式会社アイデム

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイデム本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木

調査担当 / 岸川・古橋

電話 03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

目次

	調査概要		・・・・・・・・	p . 3
1	大人調査	親の労働時間	・・・・・・・・	p . 4
2	大人調査	親の年収	・・・・・・・・	p . 5
3	大人調査	父親の仕事の充実度	・・・・・・・・	p . 6
4	大人調査	母親の仕事の充実度	・・・・・・・・	p . 7
5	大人調査	家族揃っての食事回数	・・・・・・・・	p . 8
6	大人調査	子供との会話時間	・・・・・・・・	p . 9
7	子供調査	父親との会話量	・・・・・・・・	p . 11
8	子供調査	母親との会話量	・・・・・・・・	p . 12
9	大人調査	家族との会話の内容	・・・・・・・・	p . 13
10	子供調査	父親の仕事を知っているか[有職者]	・・・・・・・・	p . 14
11	子供調査	母親の仕事を知っているか[有職者]	・・・・・・・・	p . 15
12	大人調査	配偶者の仕事を知っているか	・・・・・・・・	p . 16
13	子供調査	父親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・	p . 17
14	子供調査	母親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・	p . 17
15	子供調査	働く父親は楽しそうか	・・・・・・・・	p . 18
16	子供調査	働く母親は楽しそうか	・・・・・・・・	p . 19
17	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	・・・・・・・・	p . 20
18	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	・・・・・・・・	p . 22
19	子供調査	働く父親への憧れ	・・・・・・・・	p . 24
20	子供調査	働く母親への憧れ	・・・・・・・・	p . 26
21	子供調査	将来働くことは楽しみか	・・・・・・・・	p . 28
22	子供調査	将来の夢はあるか	・・・・・・・・	p . 30
23	大人調査	子供に将来なってほしい職業はあるか	・・・・・・・・	p . 32
24	子供調査	将来なりたい職業	・・・・・・・・	p . 33
25	大人調査	子供に将来なってほしい職業	・・・・・・・・	p . 33
26	子供調査	将来その職業になりたい理由	・・・・・・・・	p . 34
27	子供調査	将来なりたい職業に就くための努力	・・・・・・・・	p . 35
28	大人調査	家庭で行っているキャリア教育	・・・・・・・・	p . 37
29	大人調査	親の働く姿を見せることの是非	・・・・・・・・	p . 38

調査概要

調査目的

親の働く姿と子供のキャリア観への影響について調査する

調査対象

中学校1年生から3年生の子供を持つ男女で、子供と一緒にアンケート回答が可能な者

調査方法

インターネット調査

調査期間

2018年6月14日～17日

有効回答

827名

回答者内訳

大人性別	n	%
男性（父親）	510	61.7
女性（母親）	317	38.3
計	827	100.0

大人婚姻状況	n	%
既婚	780	94.3
未婚・離別・死別	47	5.7
計	827	100.0

子供性別	n	%
男子	386	46.7
女子	441	53.3
計	827	100.0

大人職業	父親の職業		母親の職業	
	n	%	n	%
正社員	690	86.0	149	18.5
契約・嘱託社員	18	2.2	28	3.5
アルバイト・パート	9	1.1	337	41.9
派遣社員	9	1.1	11	1.4
その他非正規	6	0.7	3	0.4
自営業・フリーランス等の個人事業主	66	8.2	24	3.0
無職	4	0.5	253	31.4
計	802	100.0	805	100.0

父母の就労状況	n	%
共働き家庭 A （父母とも正社員または自営業）	149	18.0
共働き家庭 B （父母の1人以上が 正社員・自営業以外の働き方）	374	45.2
専業主婦/夫 家庭 （父母のいずれかが無職）	257	31.1
シングル家庭 （父または母が雇用形態にかかわらず 有職）	47	5.7
計	827	100.0

留意事項

- 本調査における「子供調査」は、回答者（大人）による代理回答である。
回答者（大人）には、調査時に同席している子供に質問をし、その回答を聞いて記入するよう指示している。
- 調査票では、基本的に「父親」「母親」という表記をしていない。各設問においては「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。
なお、配偶者については既婚の回答者のみに聞いている。

父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答]
母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答]
- 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている。
- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

親の労働時間

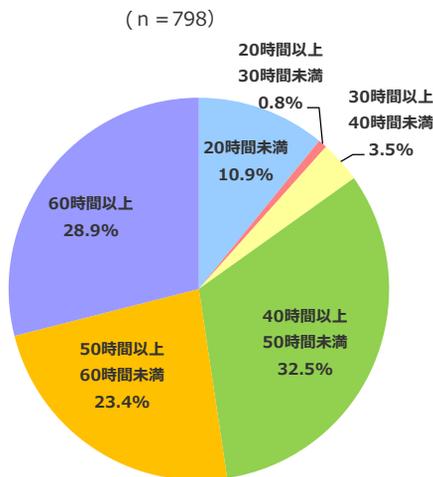
中学校1-3年生の子供がいる家庭に、有職の父親と母親の1週間の労働時間（通勤時間や持ち帰り仕事、仕事の準備等を含む）を聞いた。

父親が有職の家庭では、父親の労働時間は「40時間以上50時間未満」が32.5%と最多を占めた。次いで「60時間以上」28.9%、「50時間以上60時間未満」23.4%となっている（図1.1）。

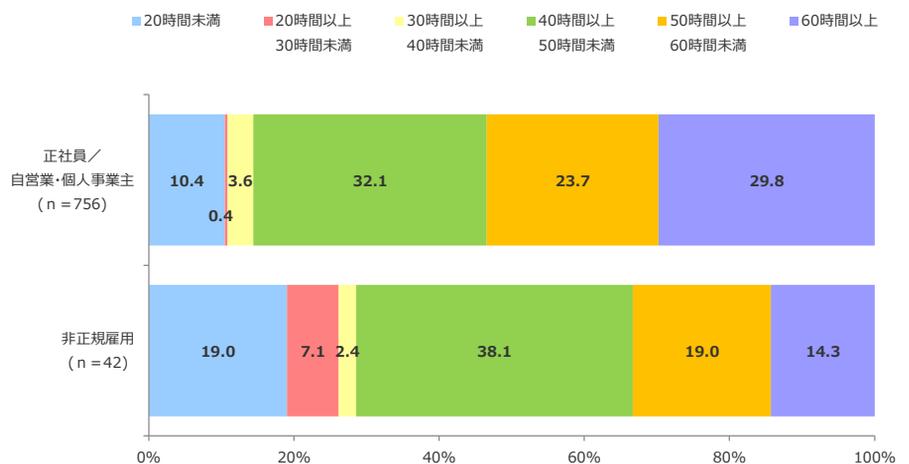
雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」と「非正規雇用」ともに「40時間以上50時間未満」が最多を占めるのは変わらない。しかし、「60時間以上」の割合が「正社員／自営業・個人事業主」では29.8%に上る一方、「非正規雇用」では14.3%となり、「正社員／自営業・個人事業主」の方がより長時間労働となっている（図1.2）。

母親が有職の家庭では、母親の労働時間は「20時間未満」25.4%、「20時間以上30時間未満」26.3%と30時間未満の時間で働いている母親が半数を超えた（図1.3）。雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」の母親の場合、「40時間以上50時間未満」のフルタイムで働いているであろう母親が53.2%に上った。父親の「正社員／自営業・個人事業主」の場合、50時間以上の回答割合が53.5%に上るのに対し、母親の場合は23.7%となっており、同じ働き方でも父親の方が長時間労働となっている。また、「非正規雇用」の場合は、7割近くが30時間未満で働いている（図1.4）。

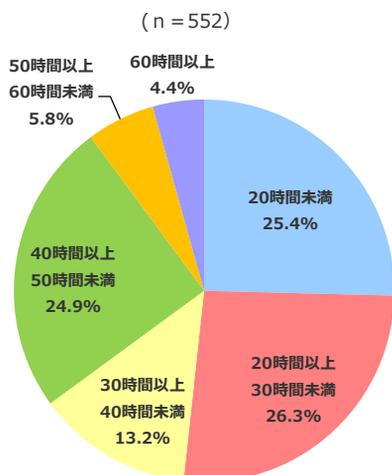
【図1.1】有職の父親の1週間の労働時間



【図1.2】有職の父親の1週間の労働時間：父親の雇用形態別



【図1.3】有職の母親の1週間の労働時間



【図1.4】有職の母親の1週間の労働時間：母親の雇用形態別



親の年収

中学校1-3年生の子供がいる家庭に、有職の父親と母親の年収を聞いた。

父親の年収は、「400万円以上600万円未満」が33.3%で最も割合が高い（図2.1）。

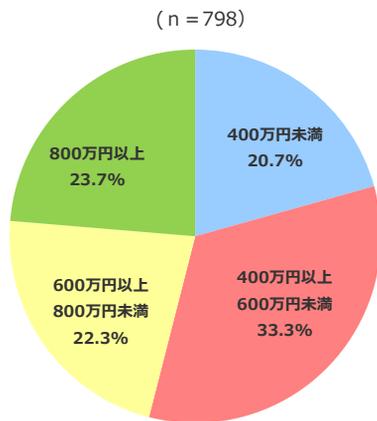
雇用形態別に見ると、「非正規雇用」は「400万円未満」が57.1%と6割近くを占めている（図2.2）。

母親の年収は、「103万円以下」が43.5%を占める。「103万円超150万円未満」も18.7%となっており、配偶者控除や第3号被保険者になれる範囲の収入の者が62.2%を占めている（図2.3）。

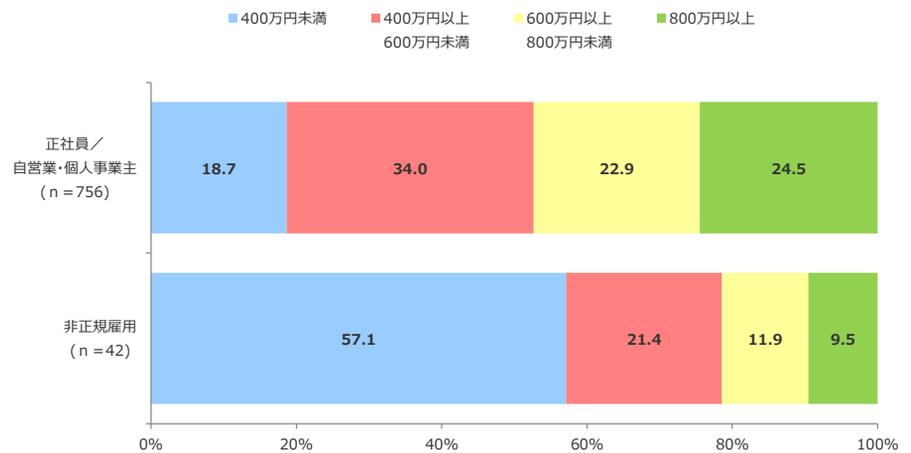
雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」は、150万円未満の年収帯の回答割合が他の雇用形態よりも低い。38.2%は年収400万円以上となっており、ある程度の収入を得ている（図2.4）。

父親と母親では、同じ雇用形態だとしても収入に開きがあり、父親の方が高い年収帯の回答割合が多い傾向にある。

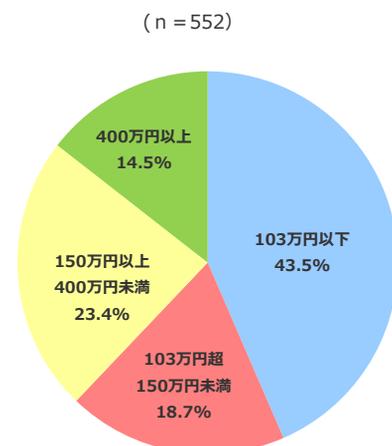
【図2.1】父親の年収



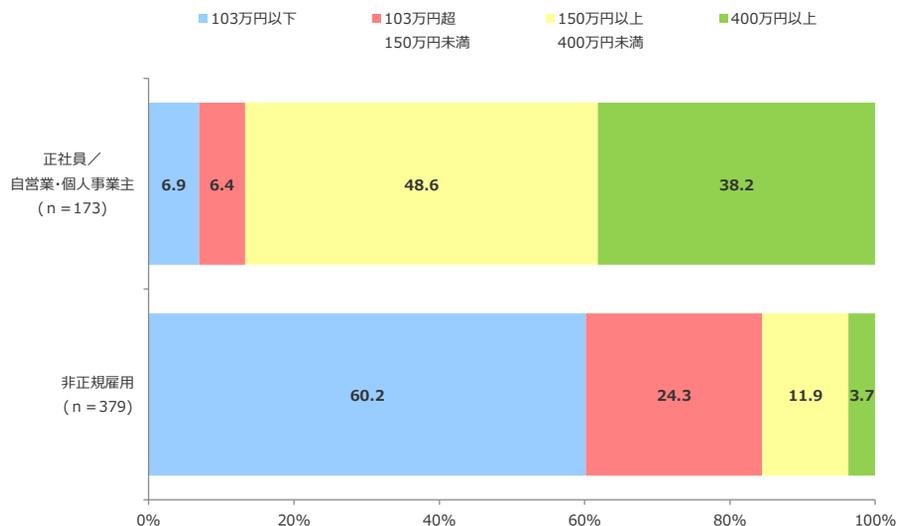
【図2.2】父親の年収：父親の雇用形態別



【図2.3】母親の年収



【図2.4】母親の年収：母親の雇用形態別



父親の仕事の充実度

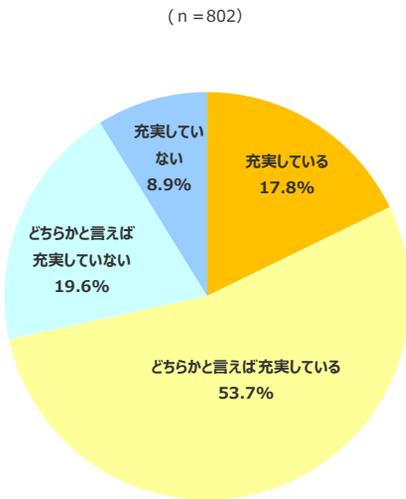
中学校1-3年生の子供がいる家庭に、父親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」17.8%、「どちらかと言えば充実している」53.7%となり、父親の仕事が充実している家庭が7割を超えた（図3.1）。

有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、回答者の少ない「20時間以上30時間未満」を除き、「50時間以上60時間未満」まで労働時間が長くなると充実度（「充実している」と「どちらかと言えば充実している」の計/以下同）も緩やかに高くなる傾向があった（図3.3）。

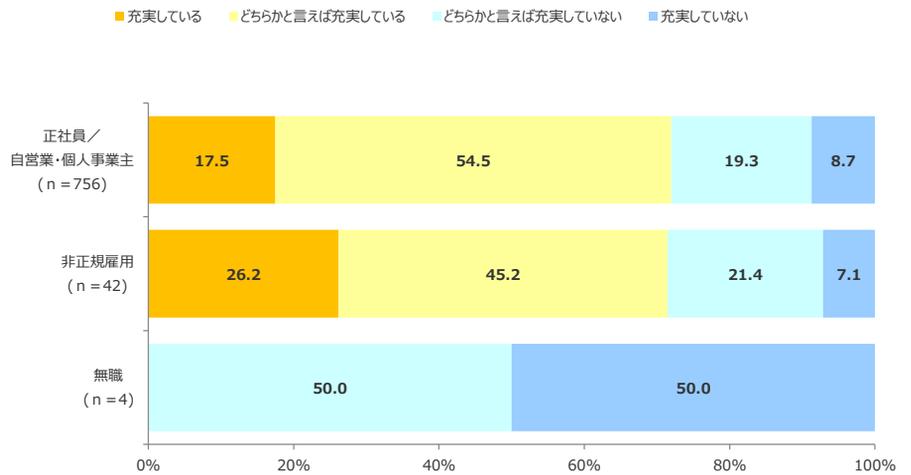
さらに、年収別に見ると、年収が高くなるほど充実度も上がっていく傾向があった（図3.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている
 ※2 回答者が女性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

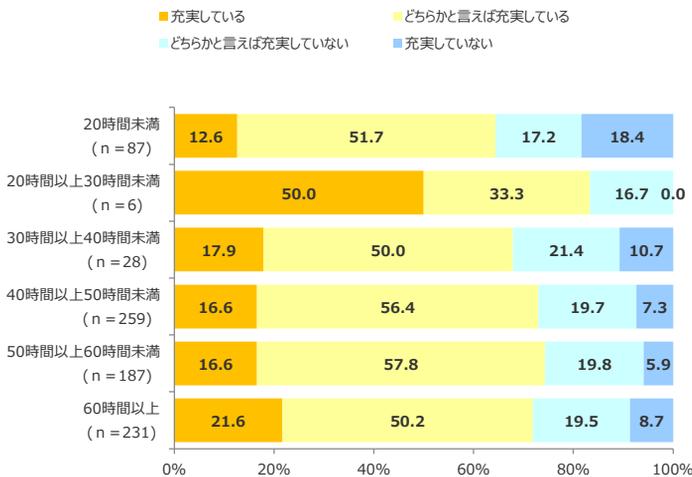
【図3.1】父親の仕事の充実度



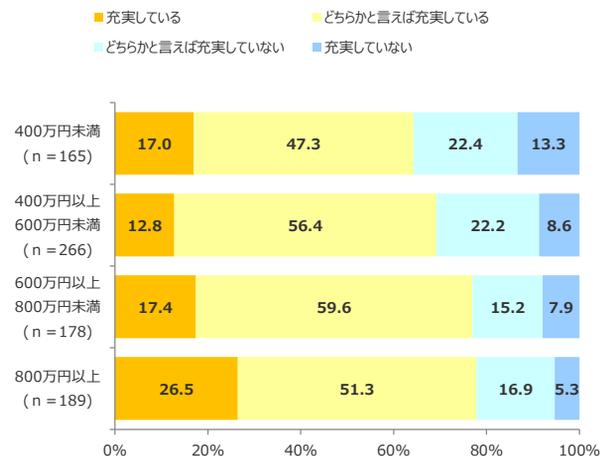
【図3.2】父親の仕事の充実度：父親の就労状況別



【図3.3】父親の仕事の充実度：有職の父親の1週間の労働時間別



【図3.4】父親の仕事の充実度：父親の年収別



母親の仕事の充実度

中学校1-3年生の子供がいる家庭に、母親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」17.1%、「どちらかと言えば充実している」55.0%となり、母親の仕事が充実している家庭が72.2%に上った（図4.1）。

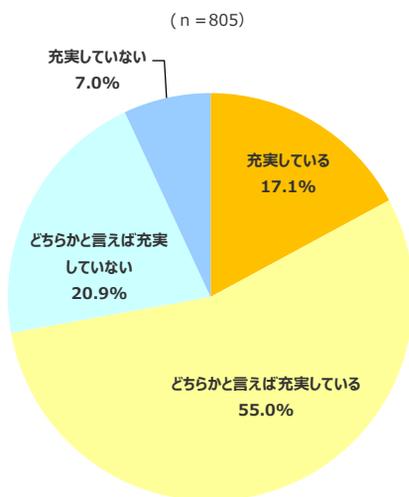
就労状況別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」の場合、充実度は76.3%となり、最も高い。また、「無職者」の充実度は68.3%となり、父親の場合とは大きく異なり、家事等に対しても充実感はあるようだ（図4.2）。

有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、全体的に充実度が高かったのは「20時間以上30時間未満」と「30時間以上40時間未満」で、それぞれ77.3%、83.6%だった。一方、「50時間以上60時間未満」「60時間以上」の母親では、「充実している」と強く感じている割合が25.0%、33.3%と他よりも高くなっているのが特徴である（図4.3）。

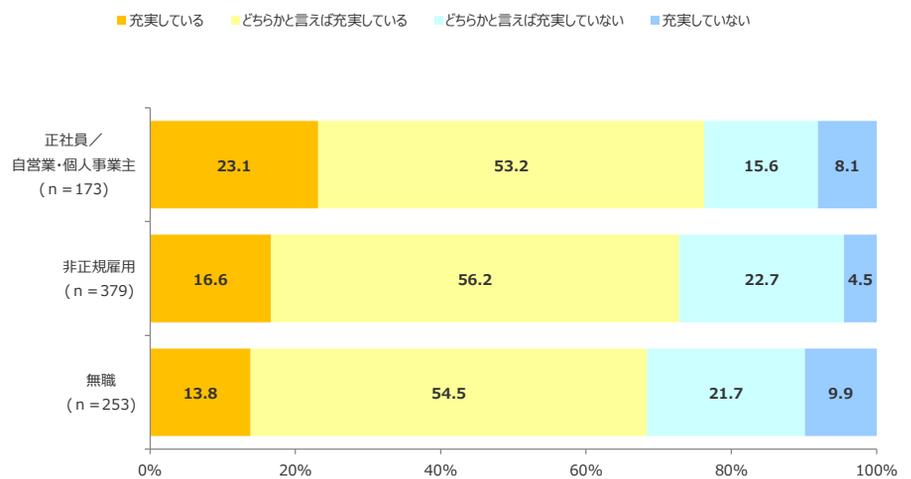
年収別に見ると、「400万円以上」の母親は「充実している」が32.5%と他の年収帯の母親よりも大幅に高く、充実度も最も高くなっていた（図4.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている
 ※2 回答者が男性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

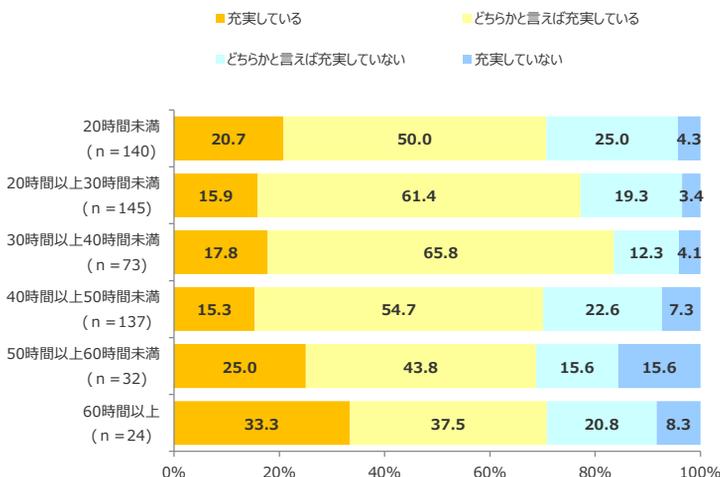
【図4.1】母親の仕事の充実度



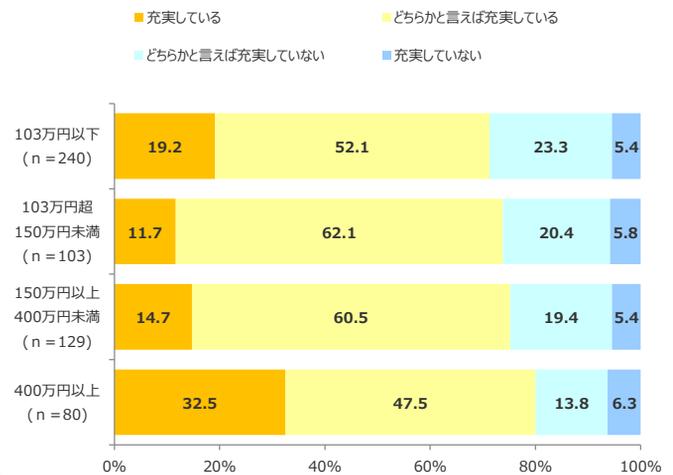
【図4.2】母親の仕事の充実度：母親の就労状況別



【図4.3】母親の仕事の充実度：有職の母親の1週間の労働時間別



【図4.4】母親の仕事の充実度：母親の年収別



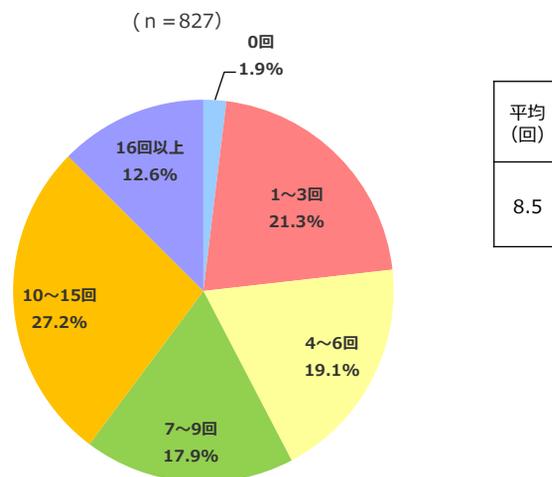
家族揃っての食事回数

中学校1-3年生の子供がいる男女に、家族（※1）が揃って食事をする機会は週何回くらいあるか聞いた。最も多かったのは、「10～15回」で27.2%となっており、平均すると1日1回程度の家庭が多い。一方、「0回」1.9%、「1～3回」21.3%、「4～6回」19.1%となっており、家族揃っての食事が1日1回以下という家庭も計42.3%ある。平均は8.5回となっている（図5.1）。

家庭状況別（調査概要参照）に見ると、「シングル家庭」「共働き家庭A」は、平均がそれぞれ10.9回、10.1回と他よりも回数が多くなっていた（図5.2）。

※1 既婚者は自身と配偶者と子供、シングル家庭は自身と子供のこと。子供は複数いる場合は1人以上同席していればカウント可としている。

【図5.1】家族揃っての食事回数



【図5.2】家族揃っての食事回数：家庭状況別



中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供との会話時間（1日平均）を聞いた（※1）。

※1 有職者は「労働日（働いている日）の平均」と「休日の平均」について、無職者は「毎日の平均」について聞いている

【有職者】労働日の子供との会話時間

有職の男女の労働日における子供との会話時間の平均を聞くと、全体では「30分未満」32.5%、「30分以上1時間未満」30.6%、「1時間以上2時間未満」23.4%、「2時間以上」13.4%だった。

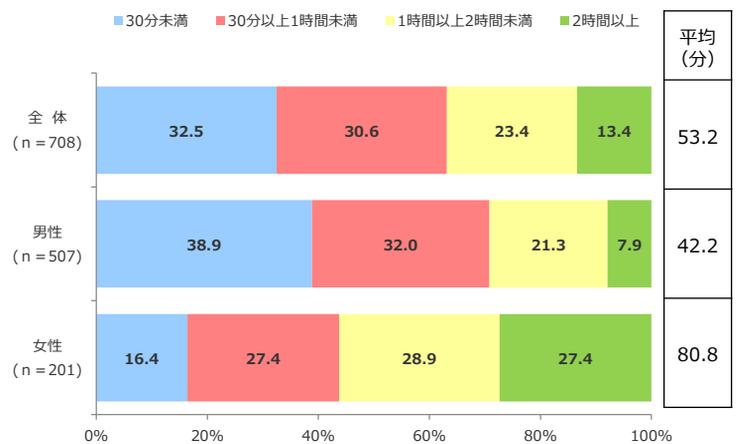
男性は「30分未満」38.9%、「30分以上1時間未満」32.0%と、1時間未満が約7割に上る。一方、女性は「1時間以上2時間未満」28.9%、「2時間以上」が27.4%に上り、女性の方が子供との会話時間が多い（図6.1）。

1週間の労働時間別に見た。

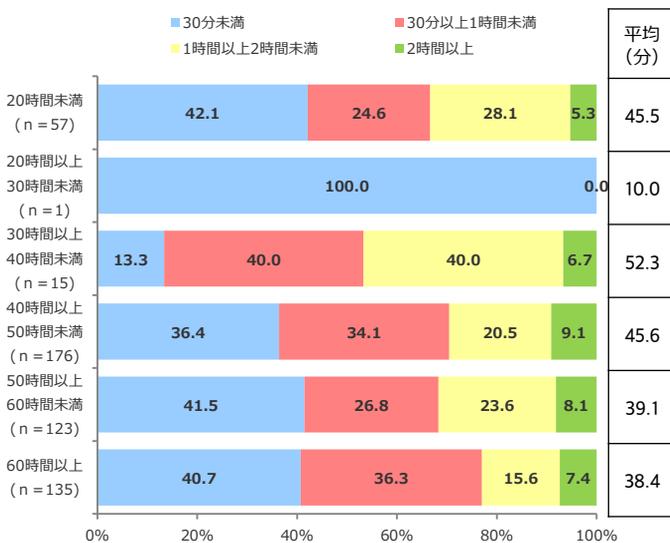
男性は、「20時間以上30時間未満」「30時間以上40時間未満」を除き、労働時間が長い男性ほど、子供と1時間以上会話している割合は概ね低くなる傾向にある（図6.2）。

一方、女性は、労働時間が長くなるにつれ子供との会話時間が1時間以上ある割合が増加する傾向があった（図6.3）。

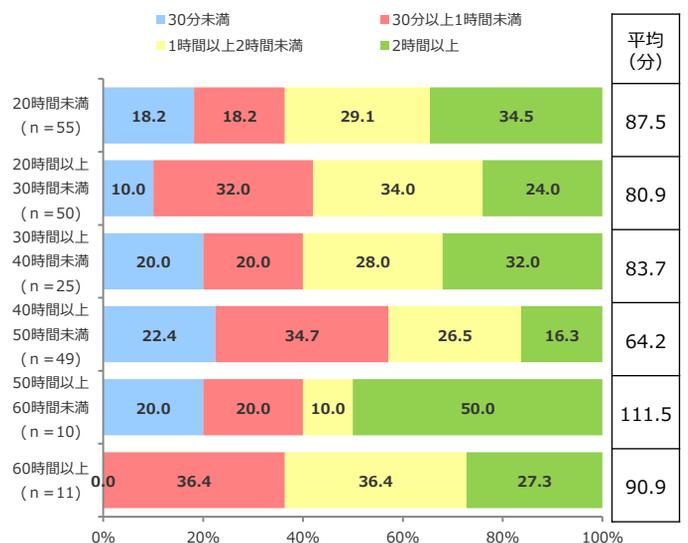
【図6.1】有職者／労働日の子供との会話時間：大人性別



【図6.2】男性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【図6.3】女性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別

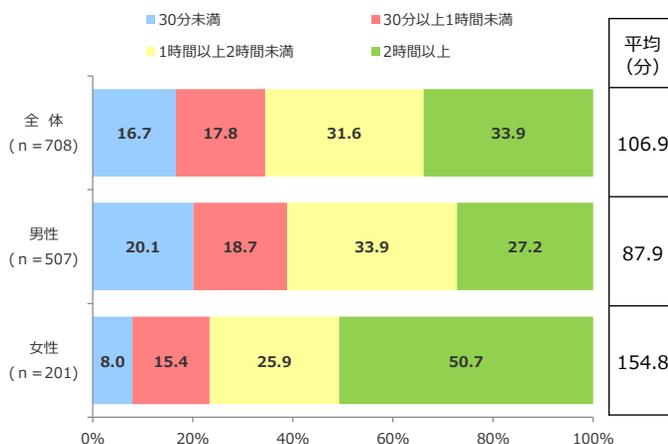


【有職者】 休日の子供との会話時間

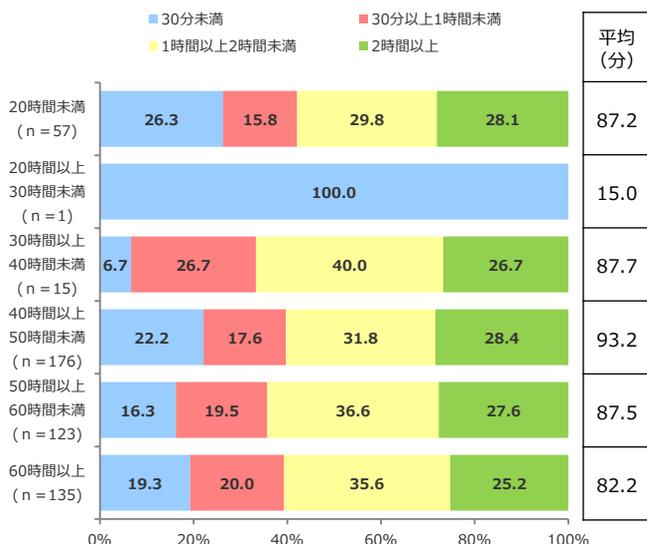
有職の男女の休日における子供との会話時間の平均を聞くと、全体では「1時間以上2時間未満」が31.6%、「2時間以上」が33.9%となっていた。平均は106.9分だった

男性は、「1時間以上2時間未満」が最多で33.9%だったが、女性では「2時間以上」が50.7%を占めていた。平均は、男性が87.9分なのに対し、女性は154.8分と約70分長く、子供との会話機会が圧倒的に多いことがうかがえる（図6.4）。

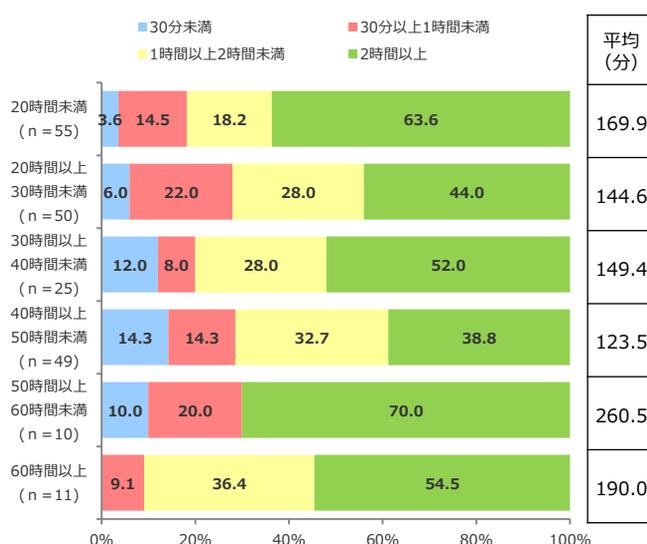
【図6.4】 有職者／休日の子供との会話時間：大人性別



【図6.5】 男性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



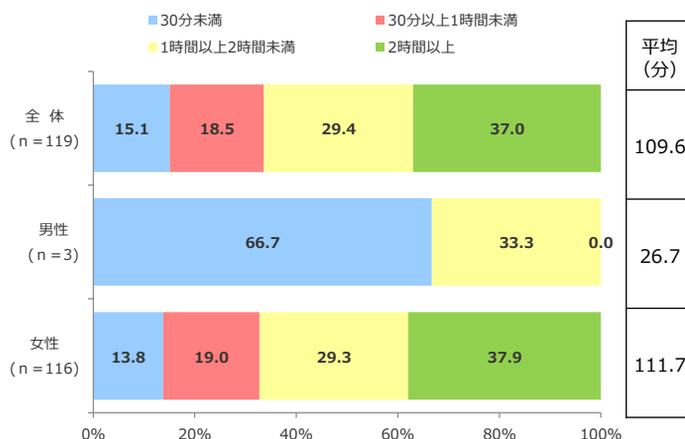
【図6.6】 女性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【無職者】の毎日の子供との会話時間

無職の者に子供との会話時間の毎日の平均を聞くと、全体では「2時間以上」37.0%で最も高くなっていた。平均は109.6分だった（図6.7）。

【図6.7】 無職者／毎日の子供との会話時間：大人性別



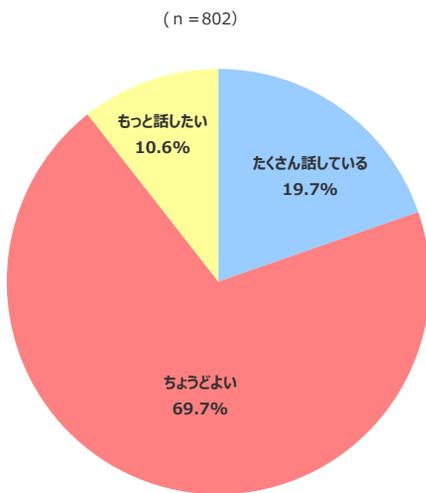
父親との会話量

中学校1-3年生の子供に、父親との会話量について聞くと、69.7%が「ちょうどよい」と回答した（図7.1）。

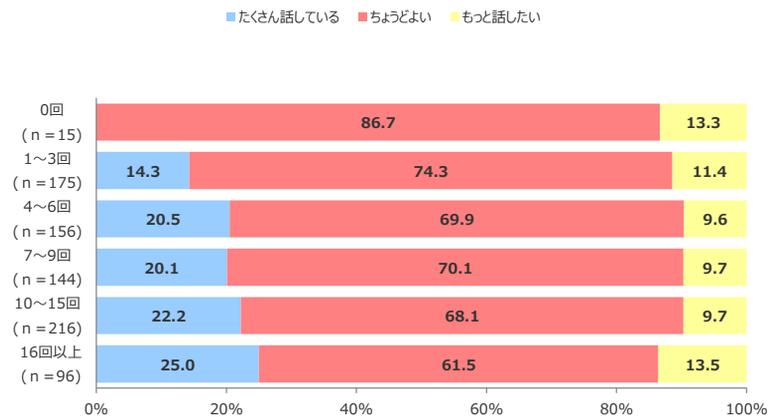
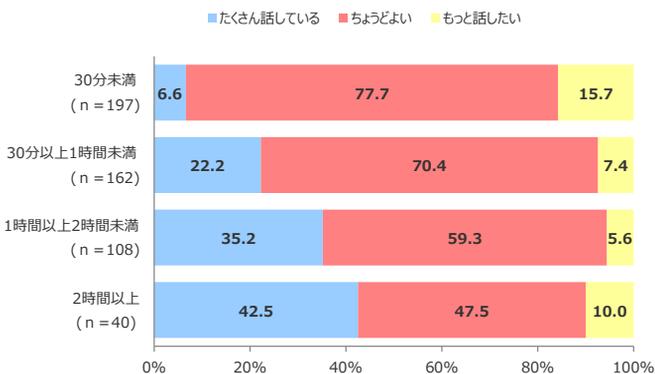
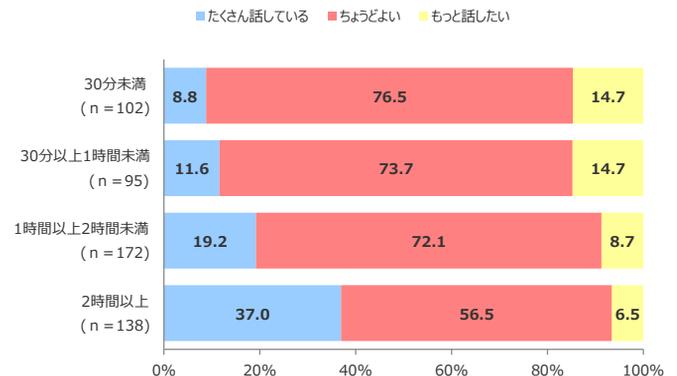
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族での食事回数が増えるほど、父親と「たくさん話している」と感じる子供が多くなる傾向がある（図7.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日でも休日でも会話時間が長くなるほど、子供は「たくさん話している」と感じている。また、子供との日々の会話時間が「30分未満」の男性の場合、子供の約15%は父親と「もっと話したい」という欲求を抱えている（図7.3、図7.4）。

【図7.1】父親との会話量



【図7.2】父親との会話量：家族揃っての食事回数別

【図7.3】父親との会話量
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別【図7.4】父親との会話量
：男性有職者の休日の子供との会話時間別

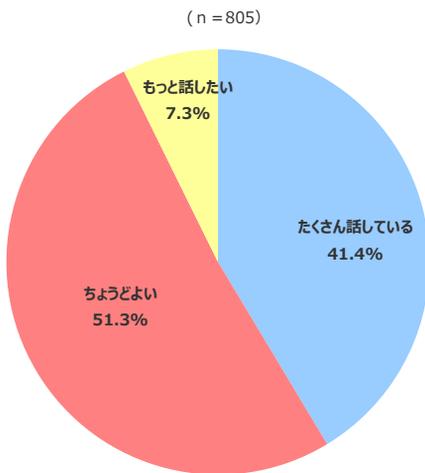
母親との会話量

中学校1-3年生の子供に、母親との会話量について聞くと、「たくさん話している」が41.4%、「ちょうどよい」51.3%となった。父親に比べて、「たくさん話している」の回答割合は大幅に高く、その差は21.4ポイントに上る（図8.1）。

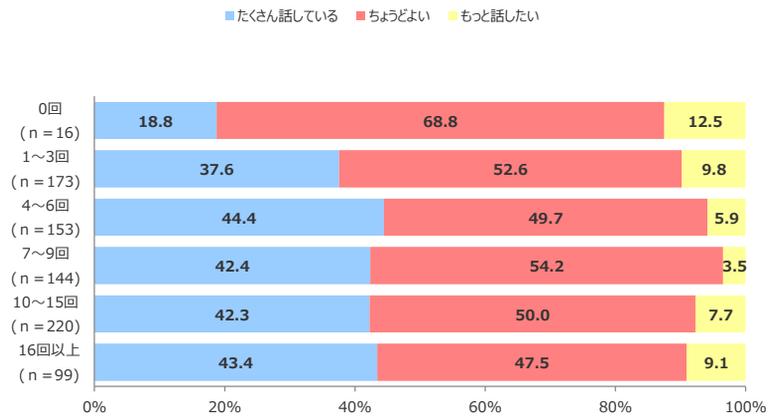
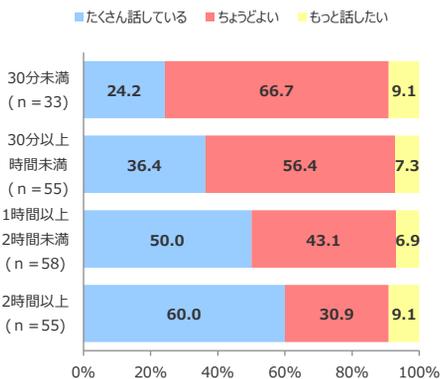
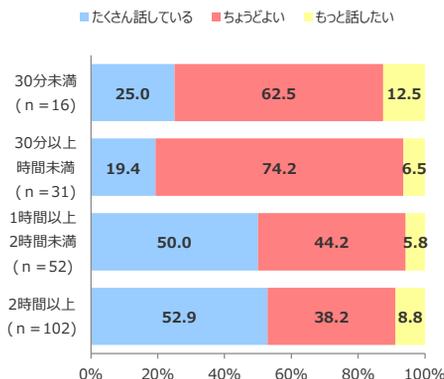
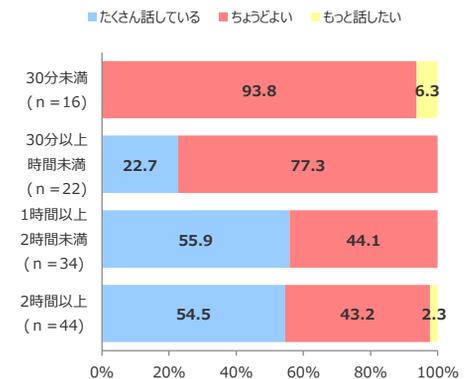
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族揃っての食事回数が多いほど、母親と「たくさん話している」と感じる子供の割合が概ね高くなっていった（図8.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者の場合は労働日、休日とも、無職者の場合は毎日の会話時間が長くなるほど、子供は「たくさん話している」と感じている割合が高い傾向にあった（図8.3、図8.4、図8.5）。

【図8.1】母親との会話量



【図8.2】母親との会話量：家族揃っての食事回数別

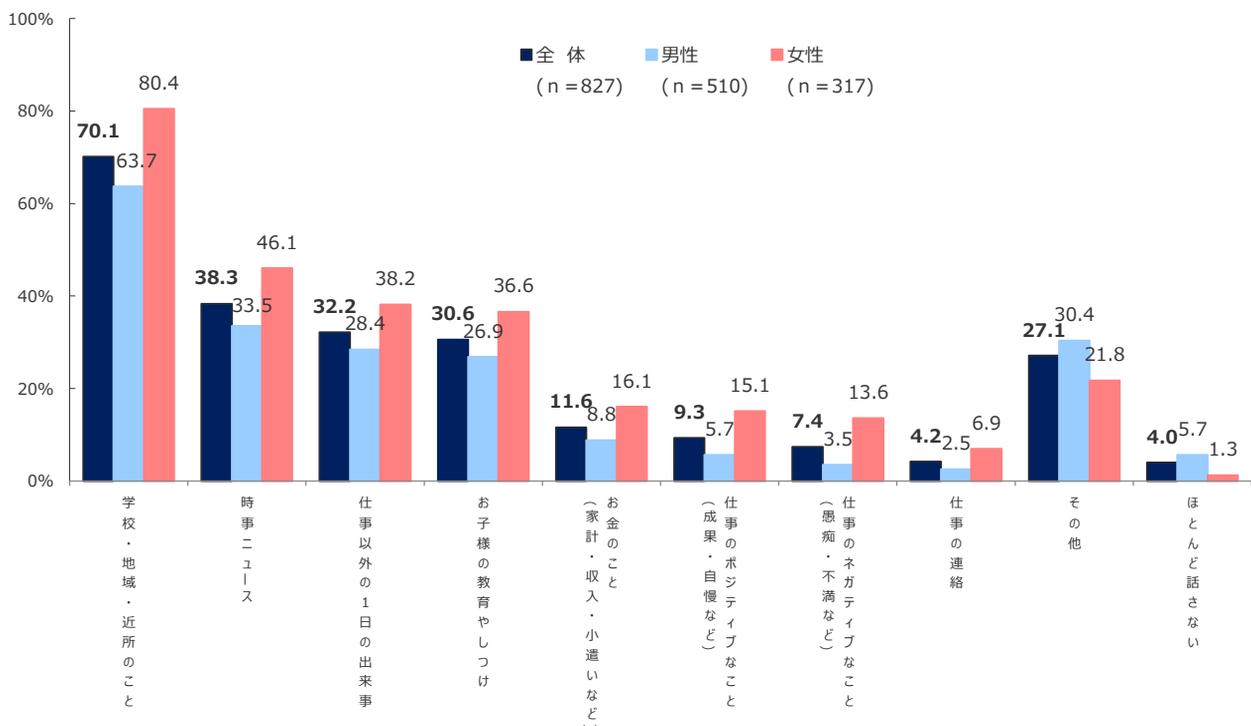
【図8.3】母親との会話量
：女性有職者の労働日の
子供との会話時間別【図8.4】母親との会話量
：女性有職者の休日の
子供との会話時間別【図8.5】母親との会話量
：女性無職者の毎日の
子供との会話時間別

家族との会話の内容

中学校1-3年生の子供がいる男女に、自身が家族と話す内容はどんなものが多いかを聞いた。最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で70.1%、次いで「時事ニュース」38.3%、「仕事以外の1日の出来事」32.2%、「お子様の教育やしつけ」30.6%となっている。

回答者の性別で見ると、女性回答者（母親）は、「その他」を除きすべての内容において男性回答者（父親）の回答割合を超えており、様々な話題を家族に話しているようだ（図9）。

【図9】 家族との会話の内容：大人性別

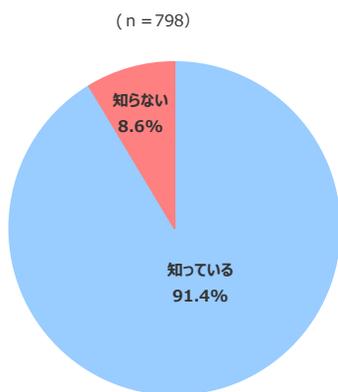


父親の仕事を知っているか[有職者]

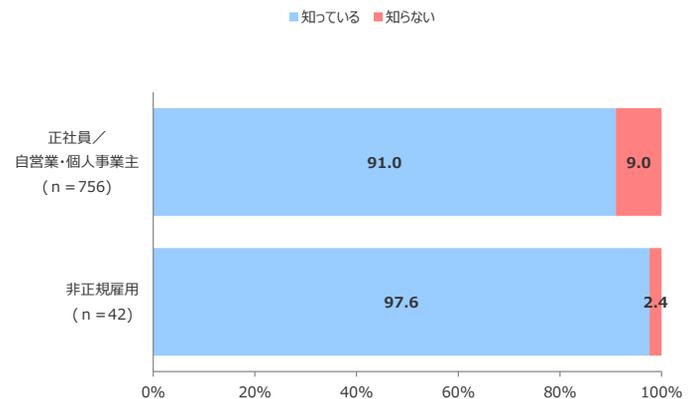
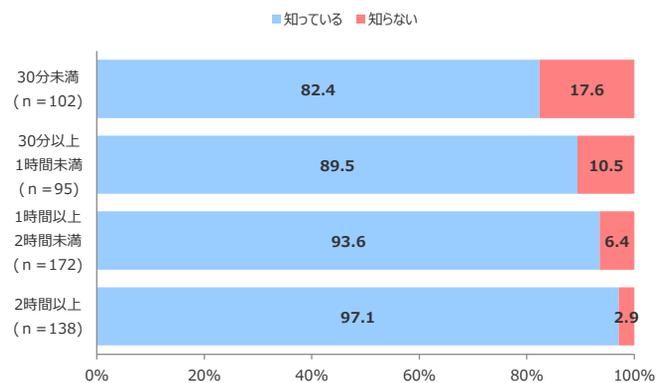
中学校1-3年生の子供に、父親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、91.4%が「知っている」と回答した（図10.1）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日および休日の会話時間が長い男性の子供ほど、父親の仕事を「知っている」割合が高くなっていく（図10.3、図10.4）。

【図10.1】父親の仕事を知っているか



【図10.2】父親の仕事を知っているか：父親の雇用形態別

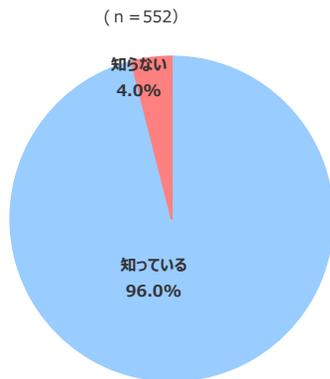
【図10.3】父親の仕事を知っているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別【図10.4】父親の仕事を知っているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別

母親の仕事を知っているか[有職者]

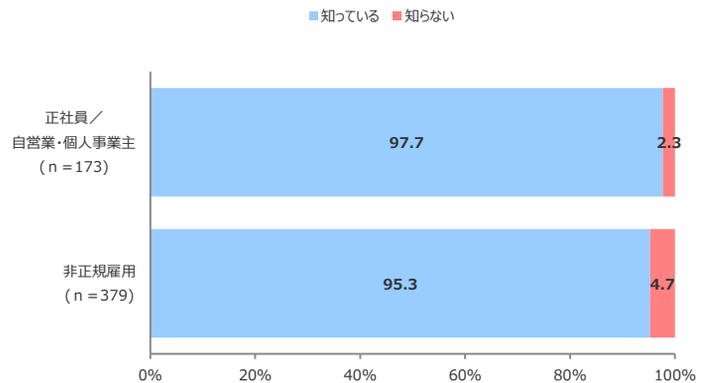
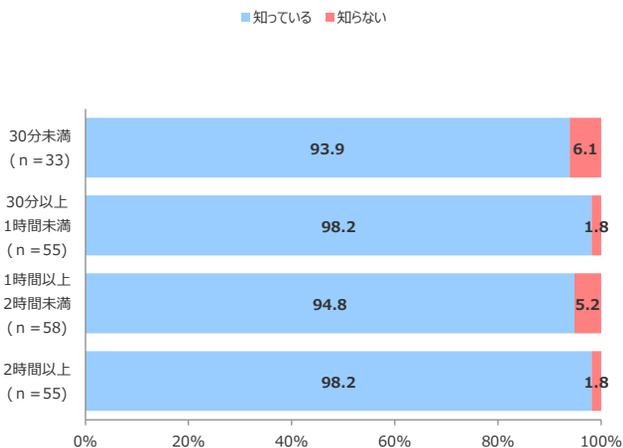
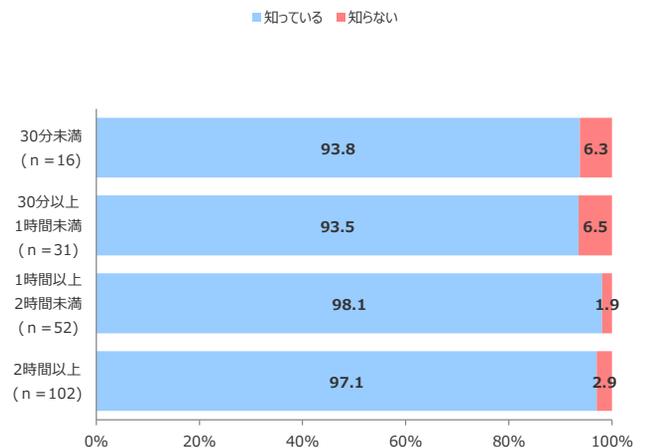
中学校1-3年生の子供に、母親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、96.0%が「知っている」と回答した（図11.1）。父親の仕事よりも母親の仕事の方が「知っている」と回答した子供の割合が高い。雇用形態別では、大きな差は見られなかった（図11.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、母親と会話時間が長い方が「知っている」割合も高くなる傾向があるが、父親の場合ほど大きな差はなかった（図11.3、図11.4）。

【図11.1】母親の仕事を知っているか



【図11.2】母親の仕事を知っているか：母親の雇用形態別

【図11.3】母親の仕事を知っているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別【図11.4】母親の仕事を知っているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別

配偶者の仕事を知っているか

中学校1-3年生の子供がいる男女で既婚の者に、「配偶者」の仕事を知っているか聞いた（※1）。「よく知っている」38.5%、「大体は知っている」39.4%となり、4分の3の回答者が配偶者の仕事のある程度把握していた（図12.1）。

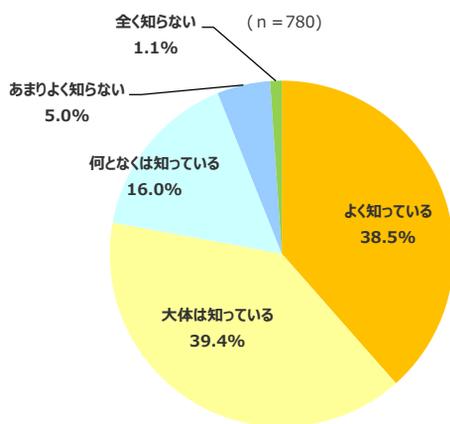
男女別に見ると、女性に比べ、男性の方が配偶者の仕事を「よく知っている」と回答した割合が高い（図12.2）。

家庭状況別に見ると、「共働き家庭A」では配偶者の仕事を「よく知っている」者が51.7%と半数に上る一方、「専業主婦/夫 家庭」では26.9%と低くなっている（図12.3）。

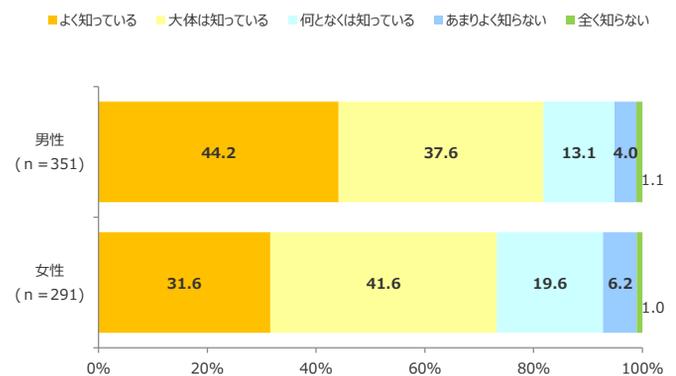
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど「よく知っている」の回答割合も高くなる傾向があり、夫婦間のコミュニケーションが進んでいることがうかがえる（図12.4）。

※1 配偶者が有職者の場合のみ集計

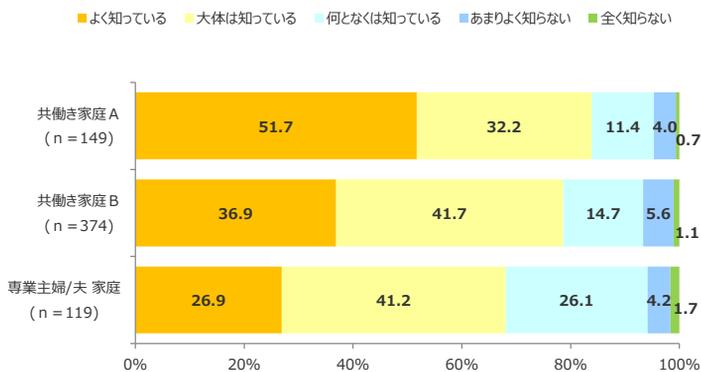
【図12.1】配偶者の仕事を知っているか



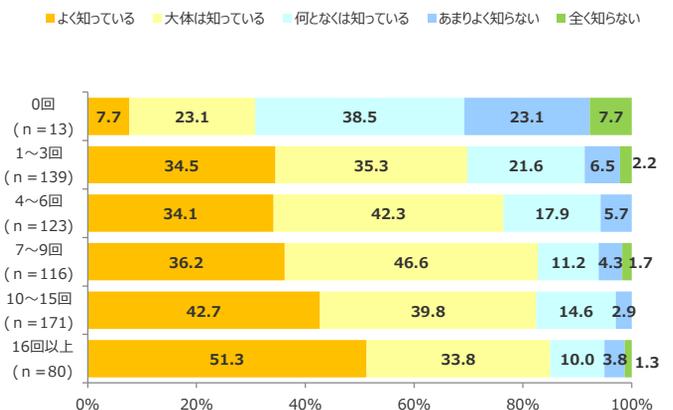
【図12.2】配偶者の仕事を知っているか：大人性別



【図12.3】配偶者の仕事を知っているか：家庭状況別



【図12.4】配偶者の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



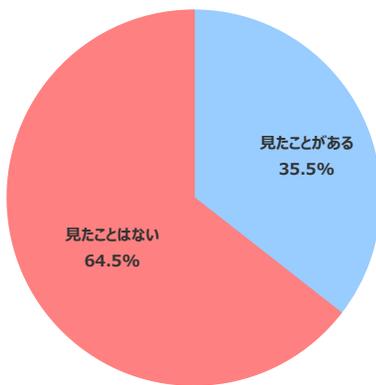
父親の働く姿を見たことがあるか

中学校1-3年生の子供に、父親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」子供は35.5%だった。有職の父親の場合も35.7%だった。父親の仕事を「知っている」子供は91.4%に上ったが、その働く姿を実際に「見たことがある」子供は多くはないようだ（図13.1、図13.2）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

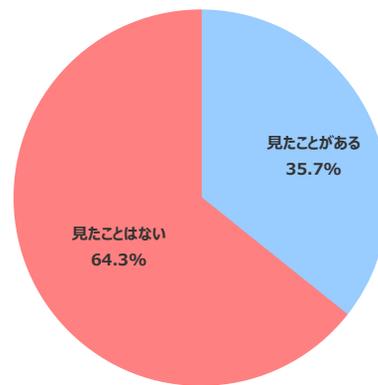
【図13.1】父親の働く姿を見たことがあるか

(n = 802)



【図13.2】父親の働く姿を見たことがあるか（有職者のみ）

(n = 798)



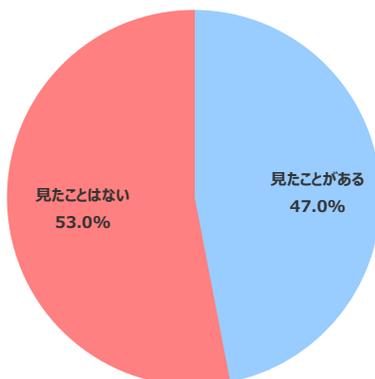
母親の働く姿を見たことがあるか

中学校1-3年生の子供に、母親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞いた。母親の働く姿を「見たことがある」子供は47.0%となり、父親の働く姿を見たことがある子供よりも割合が高くなっていった（図14.1）。有職の母親に限ると、「見たことがある」子供は40.9%で、全体よりもやや減少した（図14.2）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

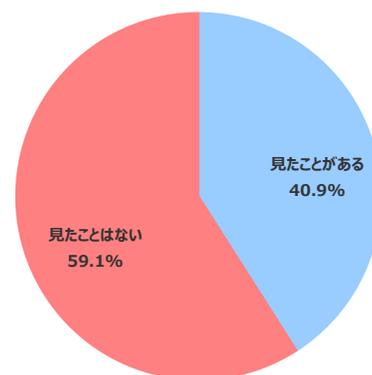
【図14.1】母親の働く姿を見たことがあるか

(n = 805)



【図14.2】母親の働く姿を見たことがあるか（有職者のみ）

(n = 552)



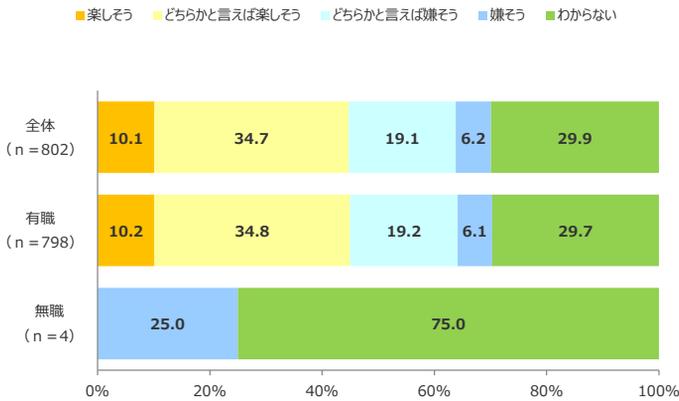
働く父親は楽しそうか

中学校1-3年生の子供に、働いている（※1）父親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。

全体では、「楽しそう」10.1%、「どちらかと言えば楽しそう」34.7%となり、合わせて44.8%の子供が、働いている父親は楽しそうに見える」と回答している。一方、「わからない」と回答した子供も多く、29.9%に上る（図15.1）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している（どちらかと言えば含む/以下同）」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計55.4%に上り、「充実していない（どちらかと言えば含む/以下同）」家庭の3倍以上高くなっていた。また、「わからない」も、「充実している」家庭の子供は28.2%だったが、「充実していない」家庭の子供では34.2%と差が生じている（図15.2）。

【図15.1】働く父親は楽しそうか：父親の就労状況別



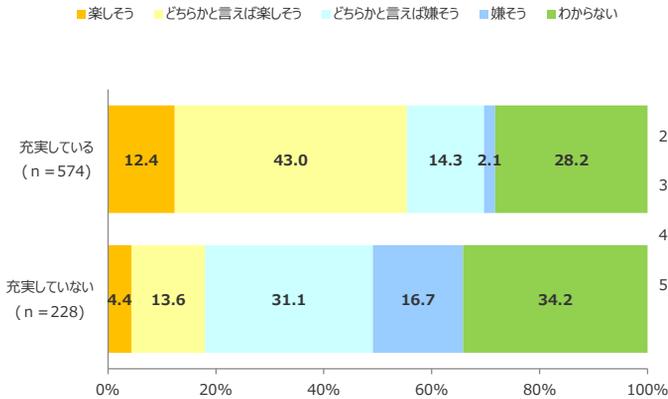
「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、父親の労働時間が30時間以上になると「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値に大きな差は見られない（図15.3）。

「大人調査：家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も概ね高くなる傾向が見えた（図15.4）。

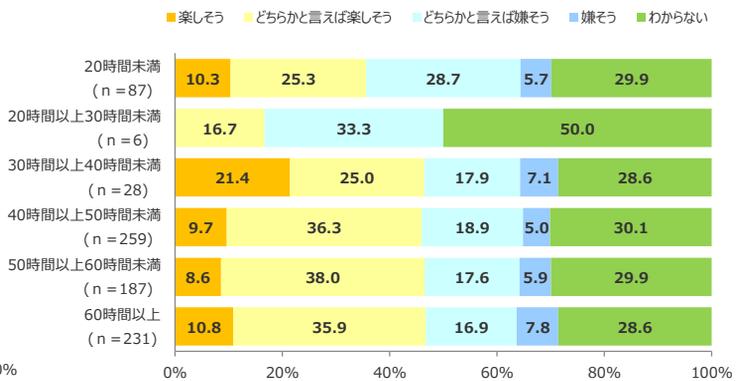
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者では会話時間が長い男性の子供ほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなる（図15.5）。子供たちは、日頃のコミュニケーションを通じて、父親の仕事の様子を感じ取っているようだ。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

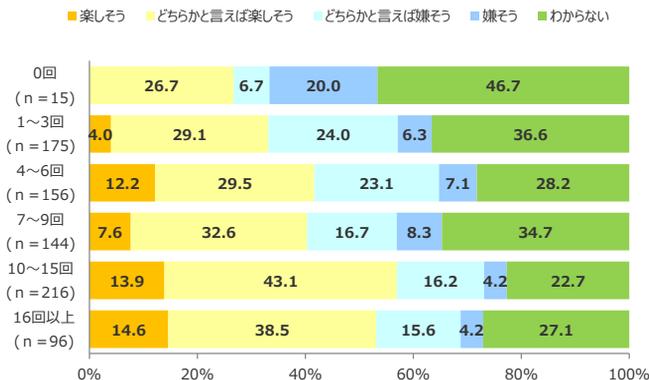
【図15.2】働く父親は楽しそうか：父親の仕事の充実度別



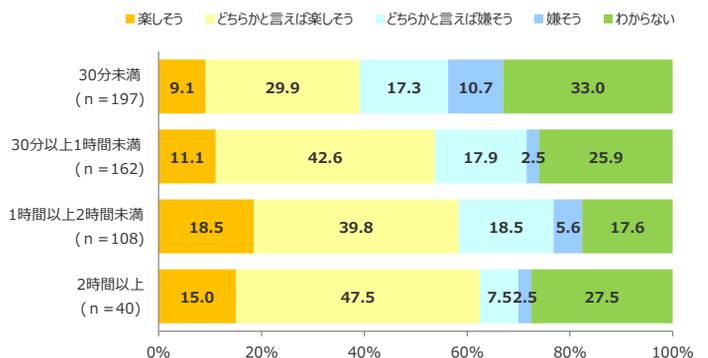
【図15.3】働く父親は楽しそうか：有職の父親の1週間の労働時間別



【図15.4】働く父親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



【図15.5】働く父親は楽しそうか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



働く母親は楽しそうか

中学校1-3年生の子供に、働いている(※1)母親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。「楽しそう」13.3%、「どちらかと言えば楽しそう」35.3%となり、合わせて48.6%の子供が働く母親が楽しそうに見えると回答した。一方、「わからない」と回答した子供も27.1%いた。有職の母親の方が、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値は高い(図16.1)。

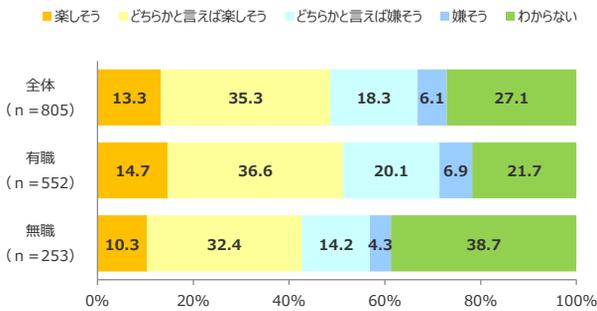
「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計60.3%に上り、「充実していない」家庭の3倍以上高い(図16.2)。

「大人調査：家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も概ね高くなっていく傾向が見えた(図16.4)。

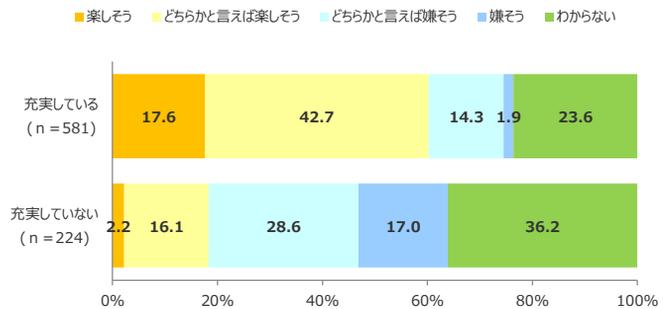
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、会話時間が長い女性の子供ほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も概ね高くなる傾向がある(図16.5、図16.6)。無職者の場合は、有職者に比べて「わからない」の回答割合が比較的高い傾向があった(図16.7)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

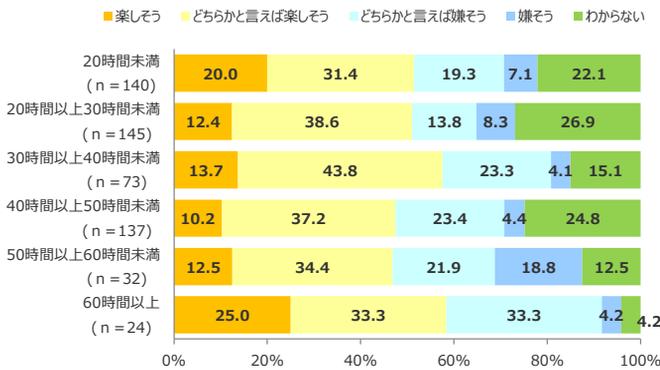
【図16.1】働く母親は楽しそうか：母親の就労状況別



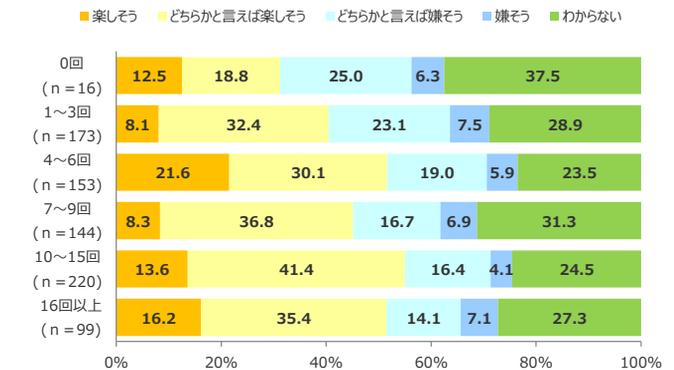
【図16.2】働く母親は楽しそうか：母親の仕事の充実度別



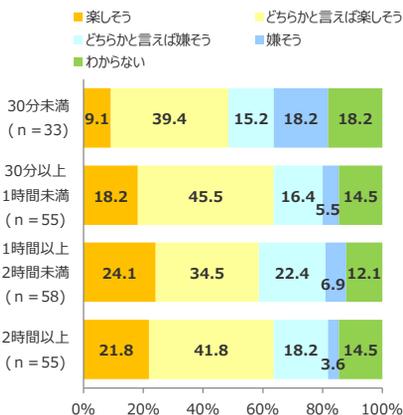
【図16.3】働く母親は楽しそうか：有職の母親の1週間の労働時間別



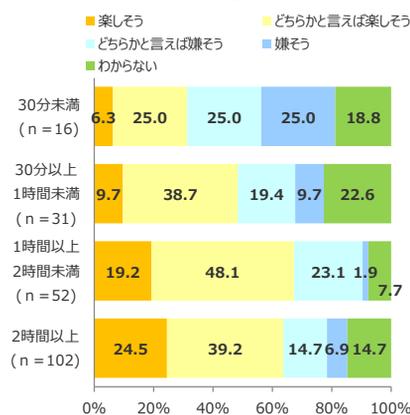
【図16.4】働く母親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



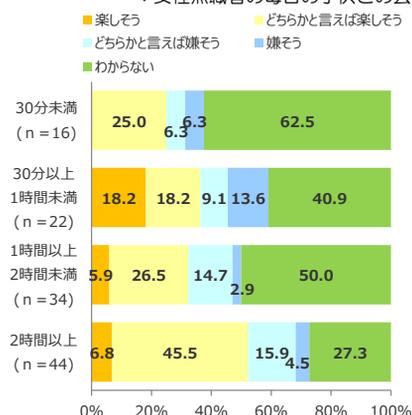
【図16.5】働く母親は楽しそうか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図16.6】働く母親は楽しそうか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図16.7】働く母親は楽しそうか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親を「すごい」と思うか

中学校1-3年生の子供に、働いている(※1)父親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」28.2%、「どちらかと言えばすごい」42.8%となり、合わせて7割の子供が働く父親をすごいと感じている。一方、「わからない」と回答した子供も16.6%いた(図17.1)。

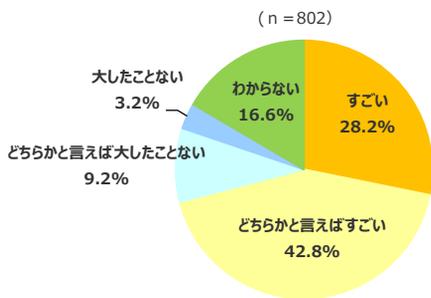
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の仕事を「見たことがある」家庭の子供は、「すごい」が37.2%と、「見たことはない」家庭よりも約15ポイント高く、そのすごさを実感しているようだ(図17.2)。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「すごい」が32.6%と、「充実していない」家庭の2倍近く高くなっていた(図17.3)。

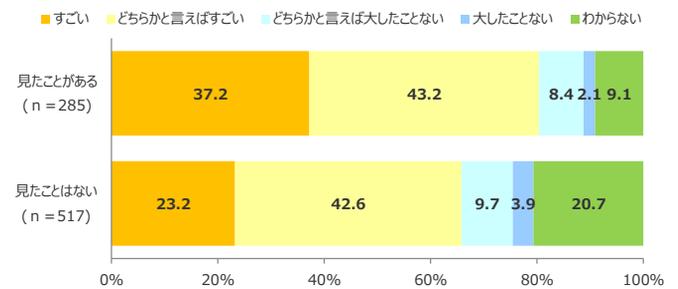
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性の場合、子供との会話時間が長くなるほど、子供が父親のことを「すごい」と感じる割合が高くなっていく。さらに、「2時間以上」子供と会話していると、「すごい」と感じている割合が約3割と最も高い。会話を通して働く父親のすごさを知っているようだ(図17.5、図17.6)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

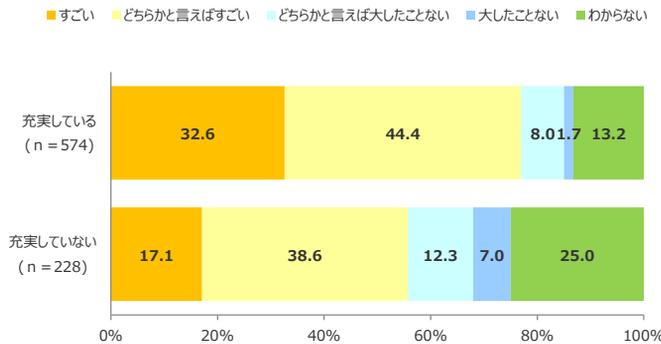
【図17.1】働いている父親を「すごい」と思うか



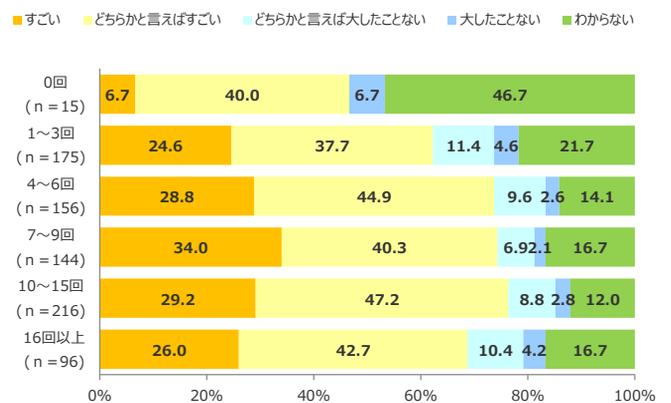
【図17.2】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の働く姿を見たことがあるか別



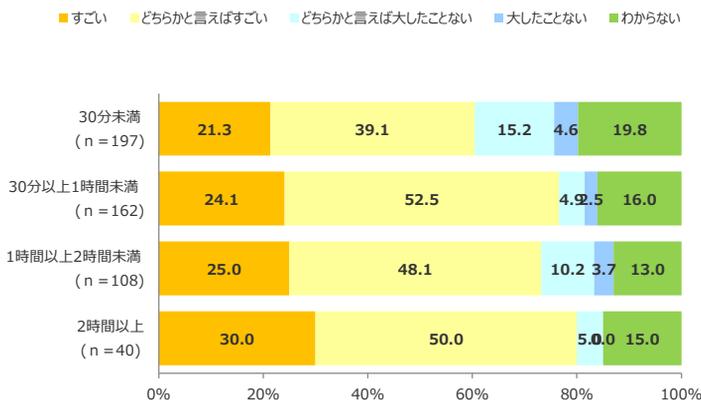
【図17.3】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の仕事の充実度別



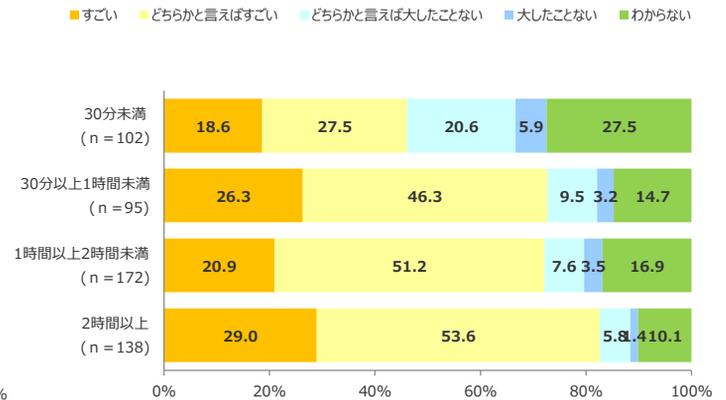
【図17.4】働いている父親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



【図17.5】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別

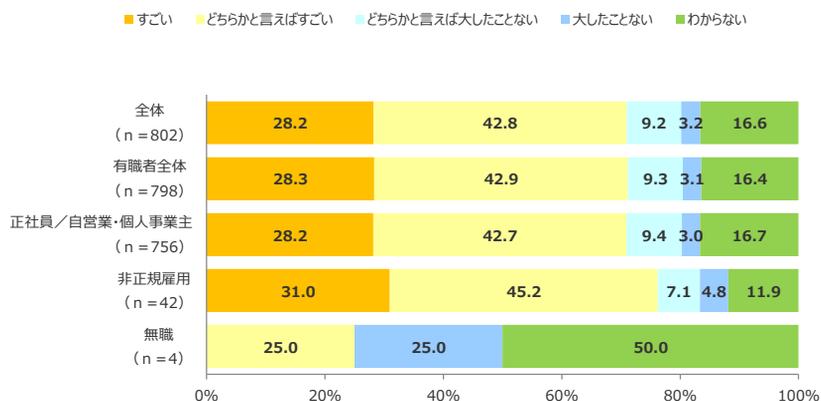


【図17.6】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の休日の子供との会話時間別

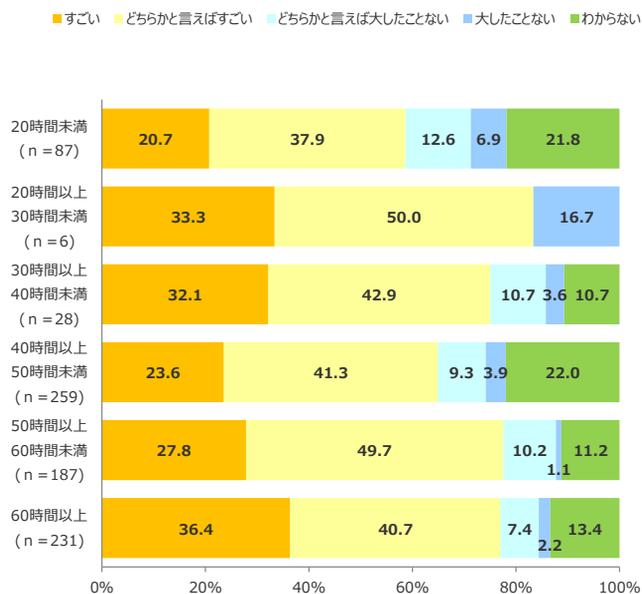


「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が高い家庭の子供ほど、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高くなっていく。また、「わからない」の回答も、年収が高いほど低くなっていた（図17.9）。

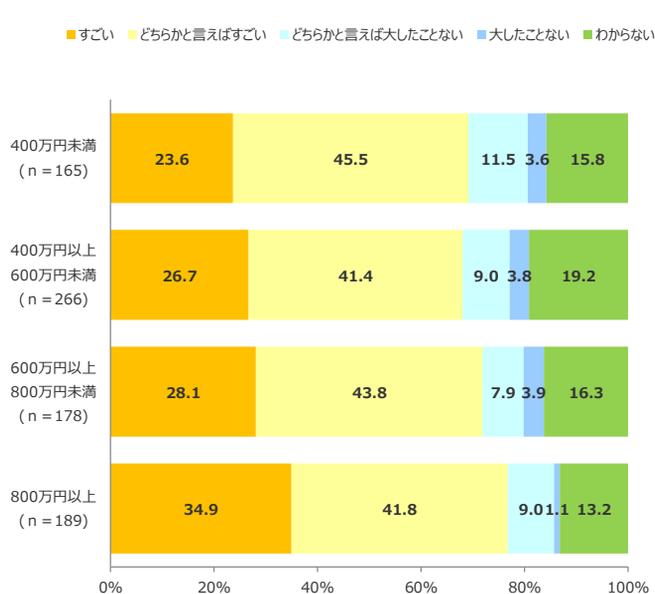
【図17.7】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の就労状況別



【図17.8】働いている父親を「すごい」と思うか：有職の父親の1週間の労働時間別



【図17.9】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の年収別



働く母親を「すごい」と思うか

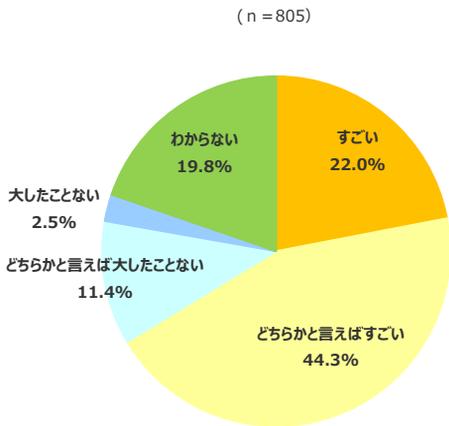
中学校1-3年生の子供に、働いている(※1)母親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」22.0%、「どちらかと言えばすごい」44.3%となり、合わせて66.3%の子供が母親をすごいと感じている。父親と比べるとやや低い(図18.1)。

「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の仕事を「見たことがある」子供は、「すごい」が27.2%となり、「見たことはない」家庭に比べて9.9ポイント高くなっていた(図18.2)。

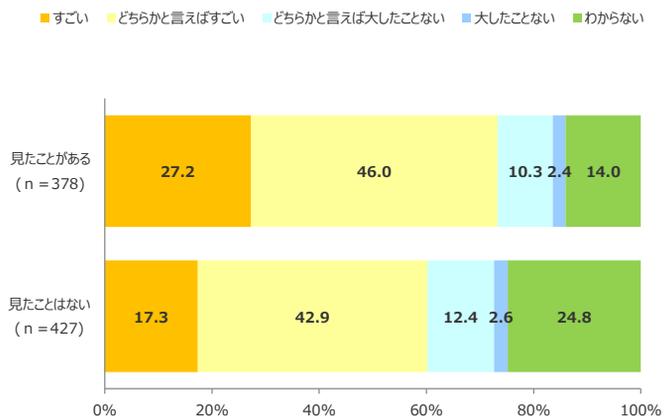
「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、「充実している」家庭の子供は、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計が72.4%となり、「充実していない」家庭よりも22.0ポイント高くなっていた(図18.3)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

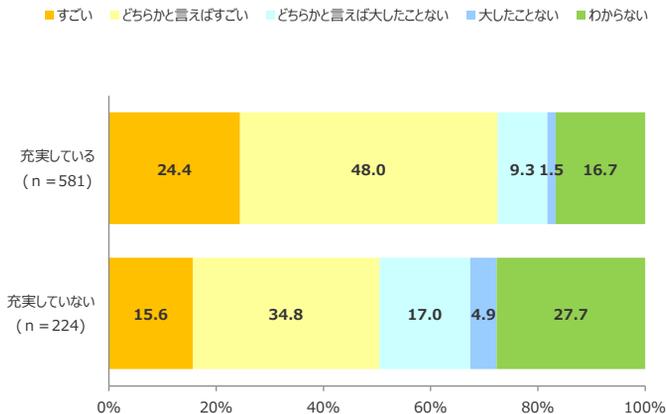
【図18.1】働いている母親を「すごい」と思うか



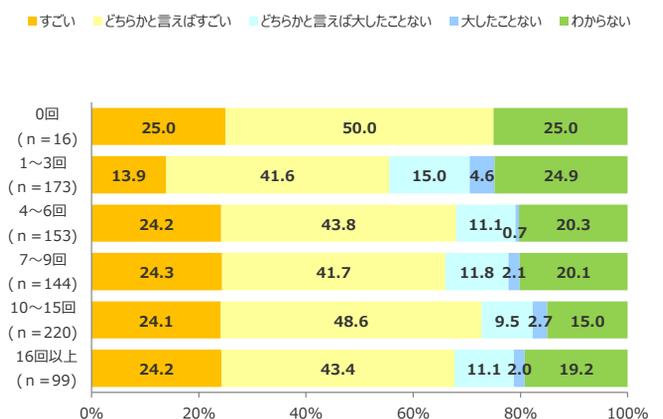
【図18.2】働いている母親を「すごい」と思うか
：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図18.3】働いている母親を「すごい」と思うか
：母親の仕事の充実度別



【図18.4】働いている母親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



母親の就労状況別に見ると、「無職」に比べて「正社員／自営業・個人事業主」「非正規雇用」の方が「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高い。とは言え、父親が「無職」の場合、「わからない」が半数に上り、家事などの無償労働が評価されづらかったが、母親の場合はそうではいようだ（図18.5）。

「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、「60時間以上」働く母親は、「すごい」が45.8%と他よりも大幅に高い。40時間以上働いている場合、「すごい」と感じる子供の割合は父親よりも高くなっていた（図18.6）。

「大人調査：親の収入」との関係を見ると、「400万円以上」の場合は、「すごい」という評価が33.8%で最も高くなる（図18.7）。

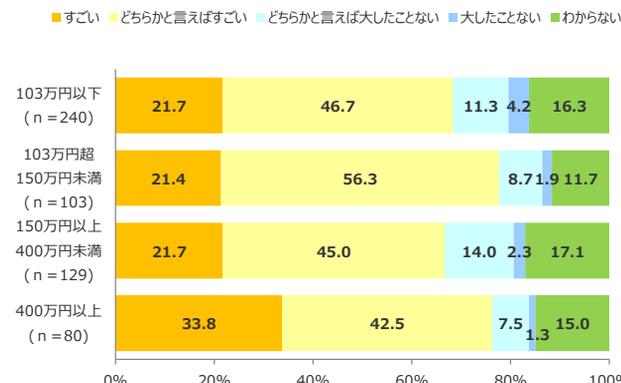
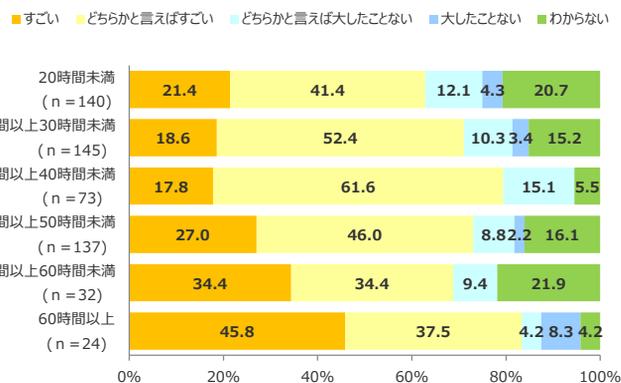
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、会話時間が長くなるほど、その子供の「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は概ね高くなる傾向だった（図18.8、図18.9、図18.10）。

【図18.5】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の就労状況別



【図18.6】働いている母親を「すごい」と思うか：有職の女性の1週間の労働時間別

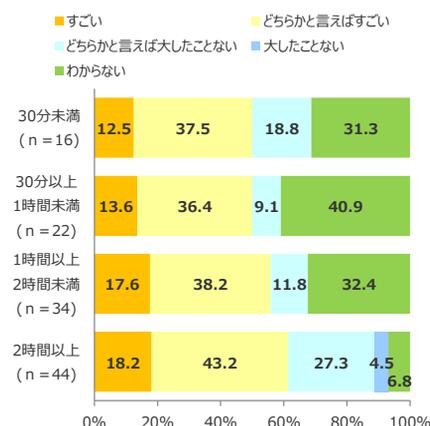
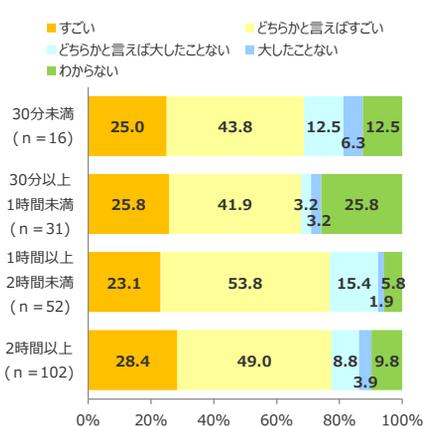
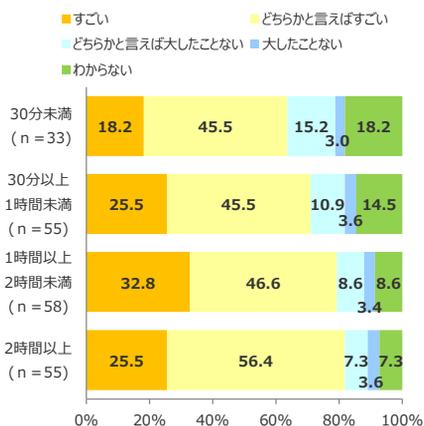
【図18.7】働いている父親を「すごい」と思うか：母親の年収別



【図18.8】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別

【図18.9】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の休日の子供との会話時間別

【図18.10】働いている母親を「すごい」と思うか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親への憧れ

中学校1-3年生の子供に、働いている（※1）父親を見てどのように感じているかを聞いた。

父親に対して、「あんな大人になりたい・計（「どちらかと言えばなりたい」も含む/以下同）」と憧れを持っている割合は、42.0%に上った（図19.1）。

子供の性別で見ると、女子よりも男子の方が「あんな大人になりたい」の割合が高く、同性ゆえかその憧れも強いようだ（図19.2）。

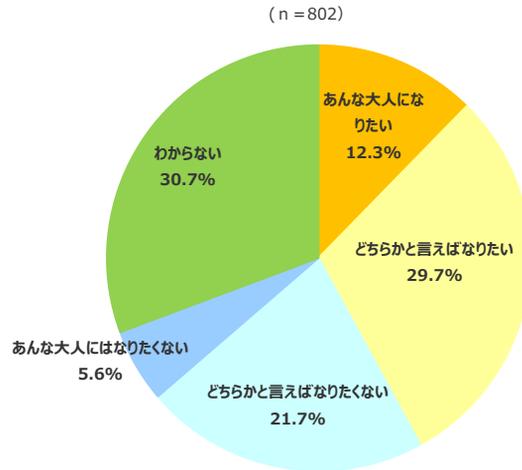
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が50.9%となり、「見たことがない」子供よりも13.6ポイント高くなっていた。さらに、「わからない」という曖昧な回答者の割合も低い（図19.3）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が49.7%と、「充実していない」家庭よりも26.9ポイントも高くなっていた（図19.4）。

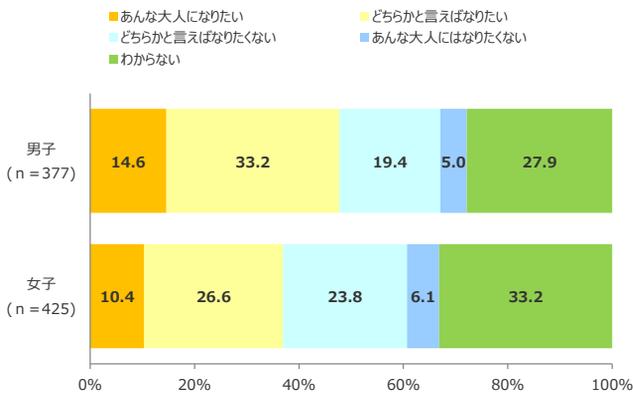
就労状況別に見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員/自営業・個人事業主」では42.2%、「非正規雇用」では42.9%、「無職」では0.0%となっている（図19.5）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

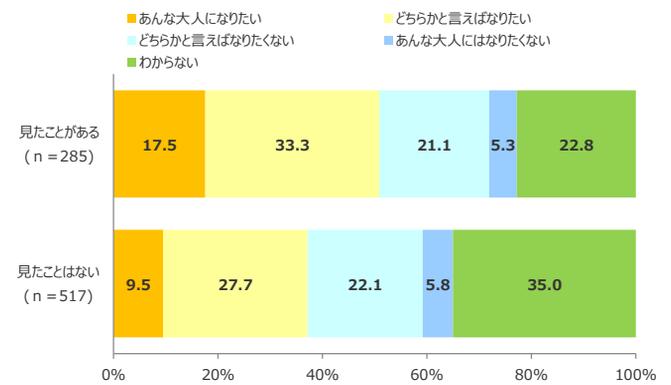
【図19.1】働いている父親を見てどのように感じているか



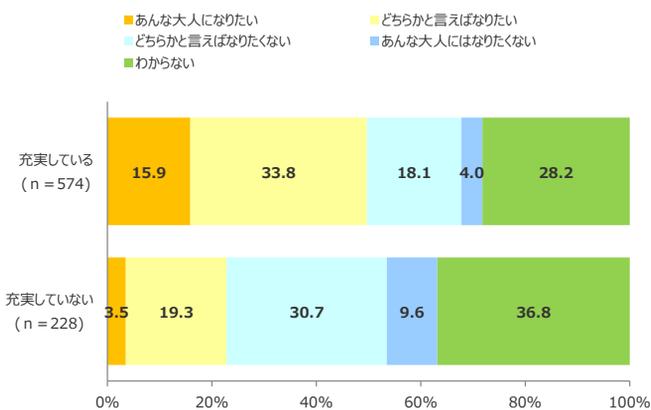
【図19.2】働いている父親を見てどのように感じているか：子供性別



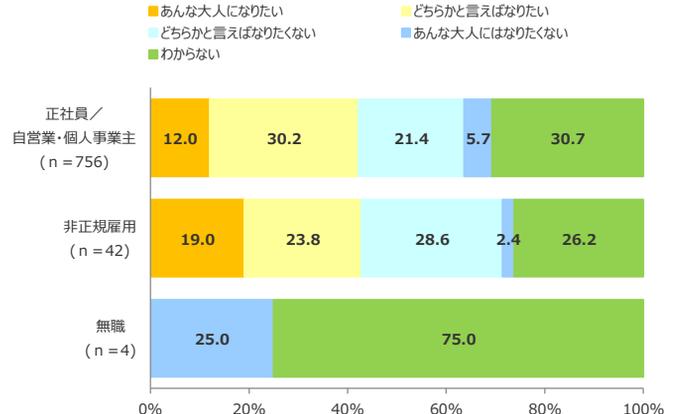
【図19.3】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の働く姿を見たことがあるか別



【図19.4】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の仕事の充実度別



【図19.5】働いている父親を見てどのように感じているか：父親の就労状況別



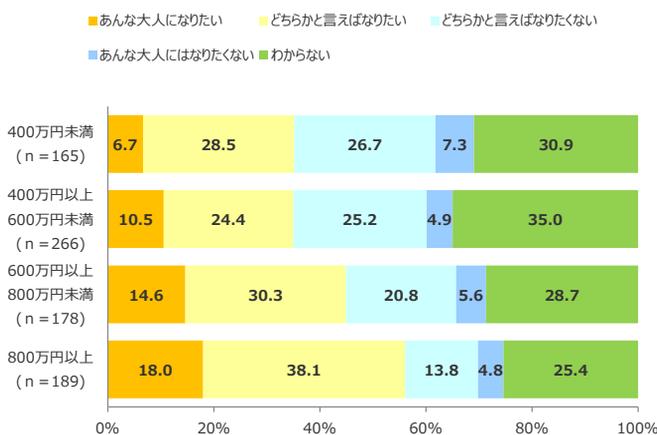
「大人調査：親の年収別」との関係を見ると、父親の年収が高くなるにつれて、「あんな大人になりたい・計」が高くなり、父親に憧れを持つ割合が高くなっている（図19.6）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど、「あんな大人になりたい・計」は高くなる傾向が見られる。「わからない」の回答割合も、食事回数が多くなるほど低くなる（図19.7）。

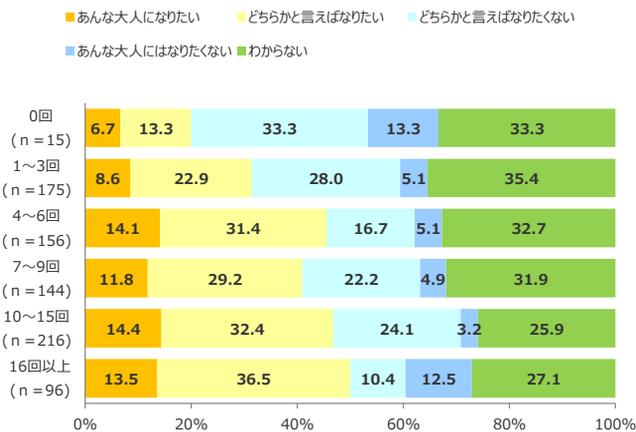
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性で子供との会話時間が長くなるほど、子供は「あんな大人になりたい・計」が高くなる傾向がある（図19.8、図19.9）。

食事や会話など父親と過ごす時間が多いことで、父親の仕事や考えに触れる機会が増え、憧れにつながっているように思われる。

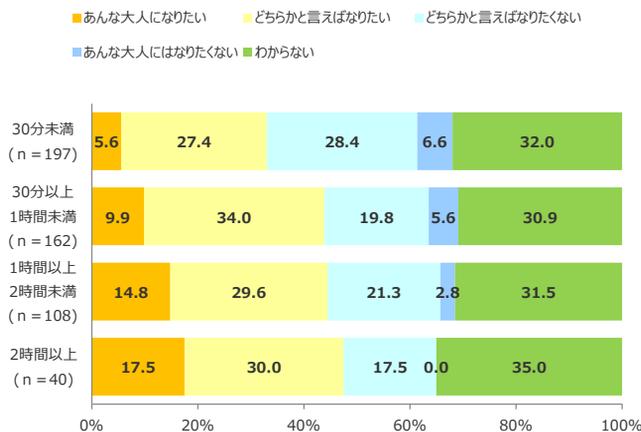
【図19.6】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の年収別



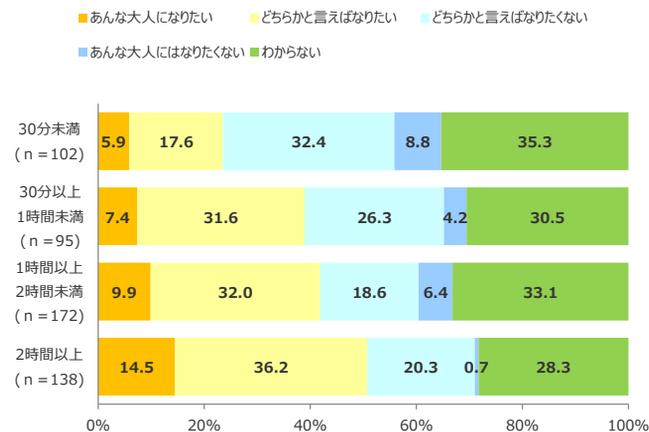
【図19.7】働いている父親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



【図19.8】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図19.9】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



働く母親への憧れ

中学校1-3年生の子供に、働いている(※1)母親を見てどのように感じているかを聞いた。

母親に対して、「あんな大人になりたい・計」と憧れを持っている割合は、43.2%に上った(図20.1)。

子供の性別で見ると、男子よりも女子の方が「あんな大人になりたい」と感じている割合が高い(図20.2)。

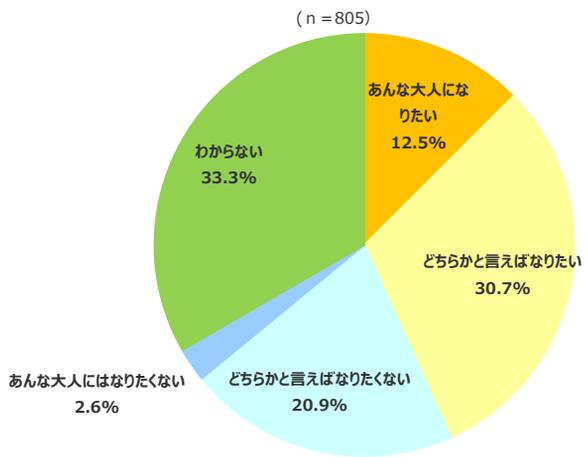
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が50.3%となり、「見たことがない」子供よりも13.3ポイント高くなっていた。父親に対する結果と同様に、「わからない」の回答割合も低くなっていた(図20.3)。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が50.3%と、「充実していない」家庭の2倍以上高くなっていた(図20.4)。

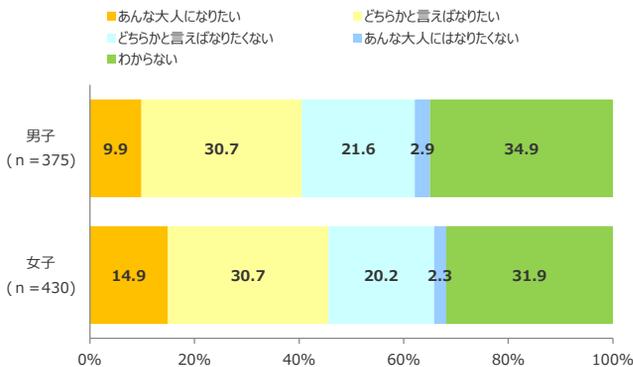
母親の就労状況別に見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員/自営業・個人事業主」では47.4%、「非正規雇用」では44.3%、「無職」では38.7%となっている(図20.5)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

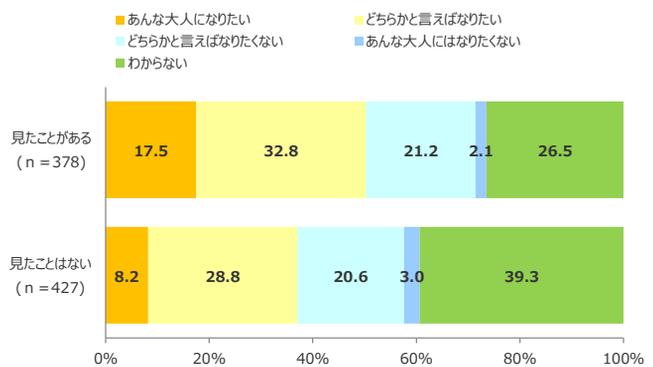
【図20.1】働いている母親を見てどのように感じているか



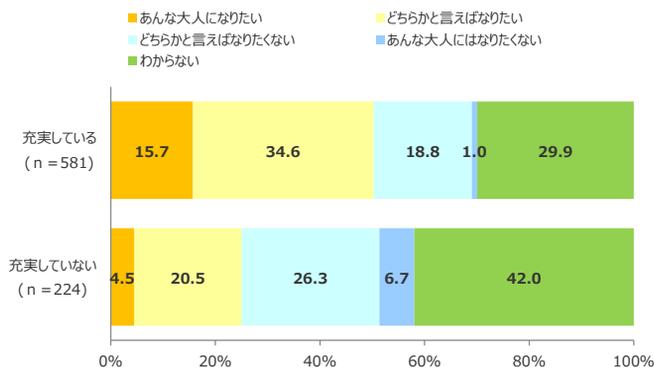
【図20.2】働いている母親を見てどのように感じているか：子供性別



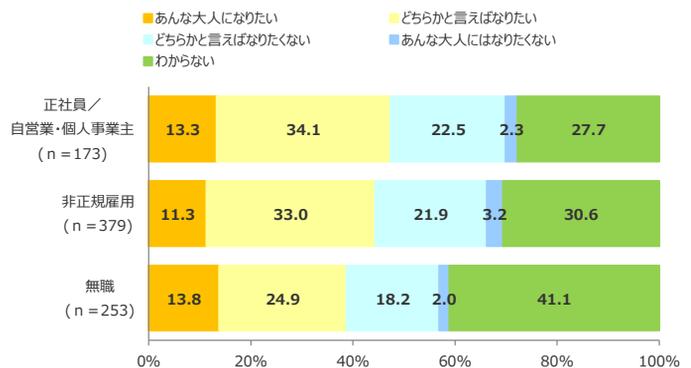
【図20.3】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図20.4】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の仕事の充実度別



【図20.5】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の就労状況別

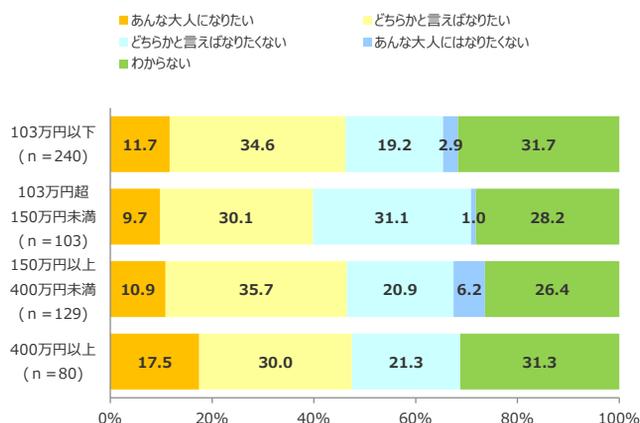


「大人調査：親の年収別」との関係を見ると、母親の年収が「400万円以上」の場合、「あんな大人になりたい」が最も高くなっている（図20.6）。

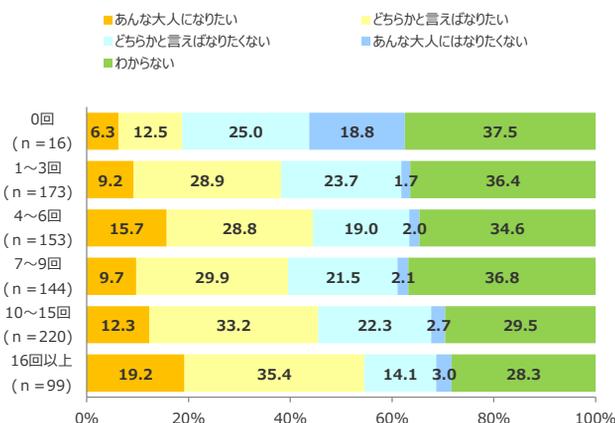
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親と同様に 食事回数が増えるほど、「あんな大人になりたい・計」は概ね高くなっていく傾向にあった（図20.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の女性（母親）の場合、子供との会話時間が長くなるほど「あんな大人になりたい・計」高くなっていく傾向がある（図20.8、図20.9）。また、無職の女性の子供も、会話時間が長くなるほど「あんな大人になりたい・計」は高まっていく傾向はあるが、有職者より回答割合は低く、「わからない」も若干高くなっている（図20.10）。

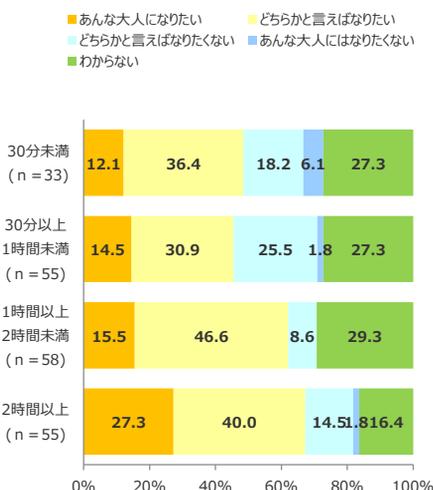
【図20.6】働いている母親を見てどのように感じているか
：母親の年収別



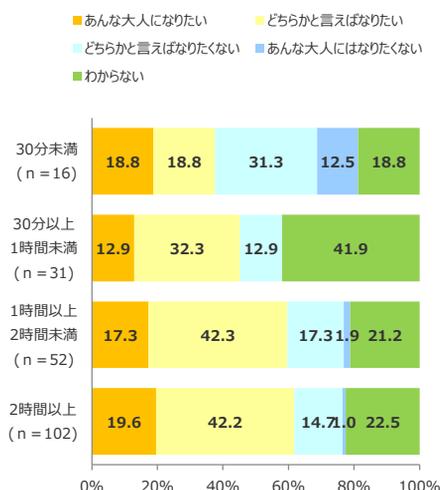
【図20.7】働いている母親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



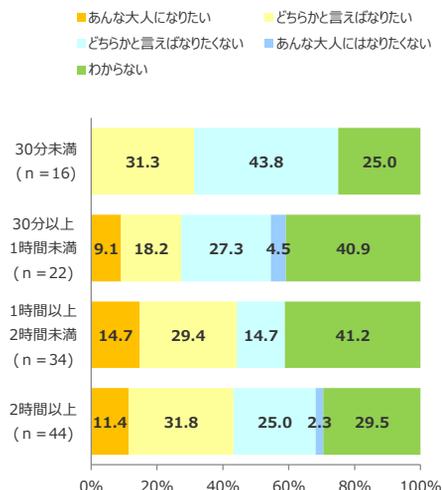
【図20.8】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図20.9】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図20.10】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



将来働くことは楽しみか

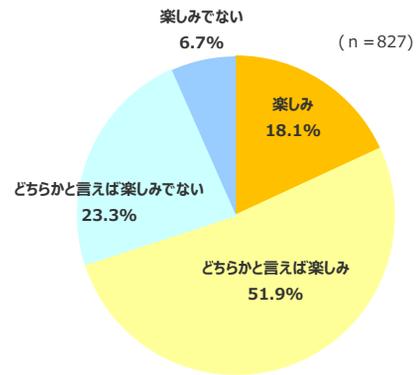
中学校1-3年生の子供に、将来働くことを楽しみに感じているかを聞いた。結果は、「楽しみ・計（「どちらかと言えば楽しみ」も含む、以下同）」が、70.0%に上った（図21.1）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が75.8%、母親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が74.8%となり、それぞれ親の働く姿を「見たことはない」子供よりも高くなっていった（図21.2、図21.3）。

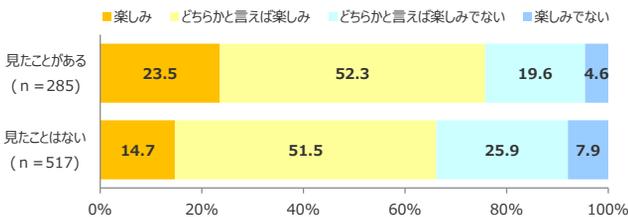
「子供調査：働く父親は楽しそうか」「子供調査：働く母親は楽しそうか」との関係を見た。父親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が83.0%、母親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が82.6%だった。それぞれ親の働く姿を「嫌そう」「わからない」と感じている子供よりも大幅に高くなっており、親の働く様子が子供にも伝わり、将来働くことへの期待感を抱かせていることが感じられる（図21.4、図21.5）。

「大人調査：親の収入」との関係を見た。父親および母親の収入が高くなるほど、将来働くことが「楽しみ・計」と回答する子供の割合が概ね高くなっていく（図21.6、図21.7）。

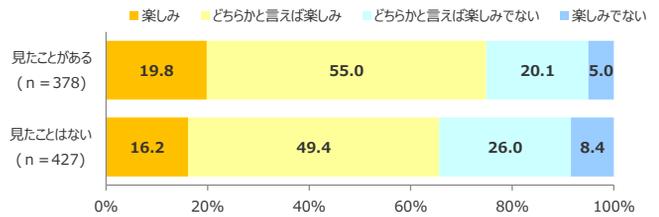
【図21.1】 将来働くことを楽しみに感じているか



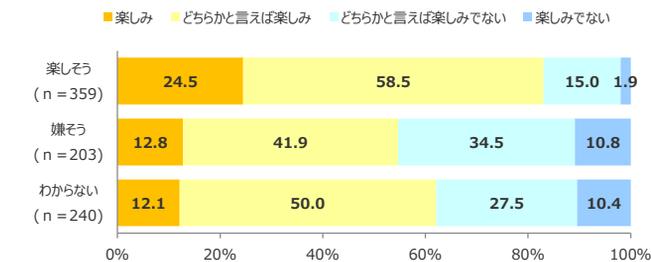
【図21.2】 将来働くことを楽しみに感じているか：父親の働く姿を見たことがあるか別



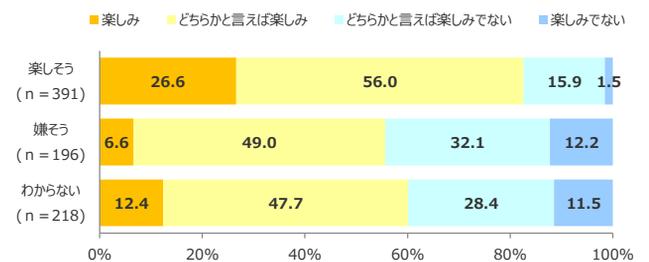
【図21.3】 将来働くことを楽しみに感じているか：母親の働く姿を見たことがあるか別



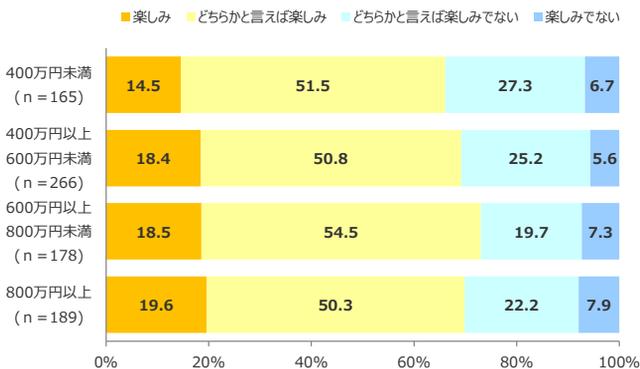
【図21.4】 将来働くことを楽しみに感じているか：働く父親は楽しそうか別



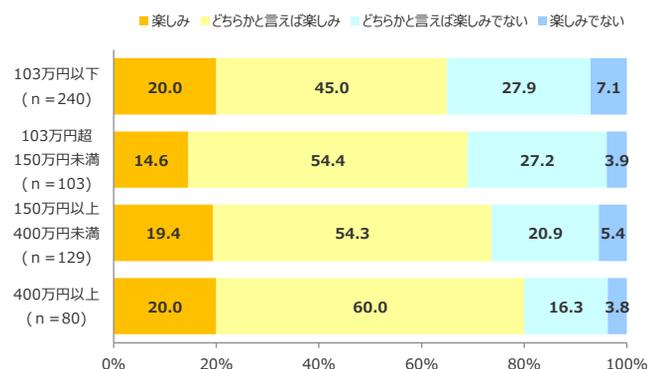
【図21.5】 将来働くことを楽しみに感じているか：働く母親は楽しそうか別



【図21.6】 将来働くことを楽しみに感じているか：父親の年収別



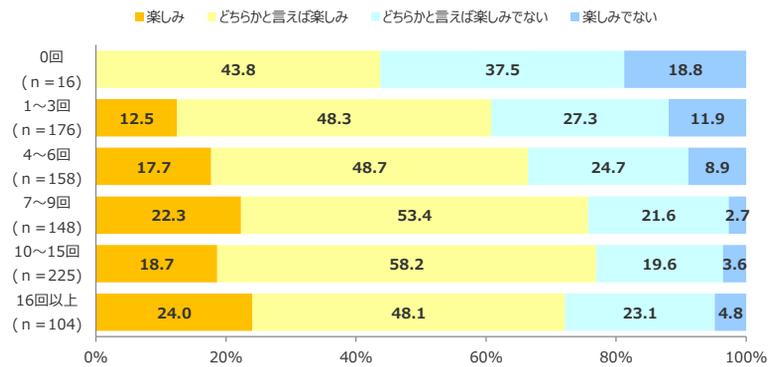
【図21.7】 将来働くことを楽しみに感じているか：母親の年収別



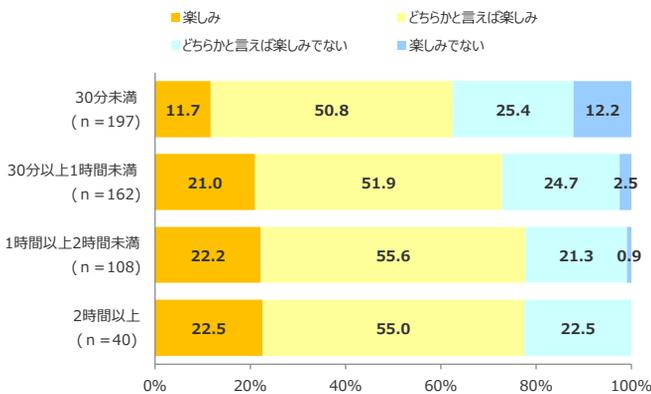
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、「楽しみ」と回答した割合は、概ね食事回数が多くなるほど高くなっている（図21.8）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見た。有職者において子供との会話時間が長い男女ほど、その子供が将来働くことを「楽しみ・計」と回答した割合が概ね高くなる傾向が見られる（図21.9、図21.10、図21.11、図21.12）。

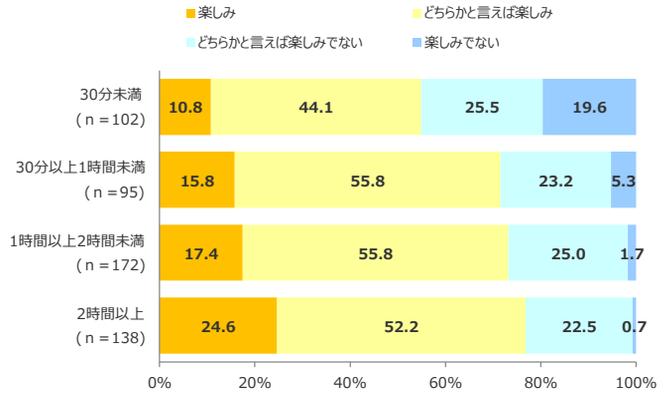
【図21.8】将来働くことは楽しみか：家族揃っての食事回数別



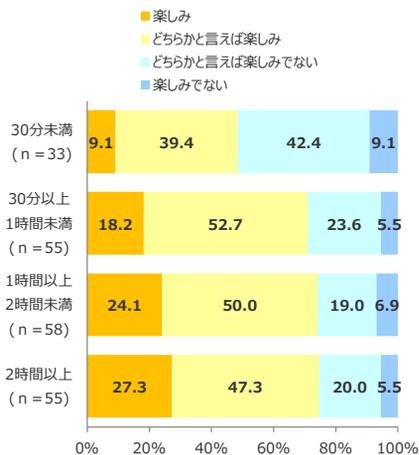
【図21.9】将来働くことは楽しみか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図21.10】将来働くことは楽しみか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



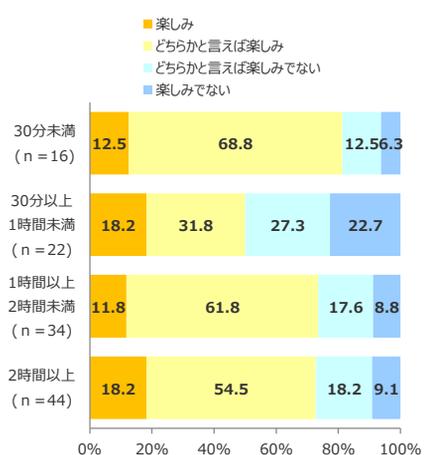
【図21.11】将来働くことは楽しみか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図21.12】将来働くことは楽しみか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図21.13】将来働くことは楽しみか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



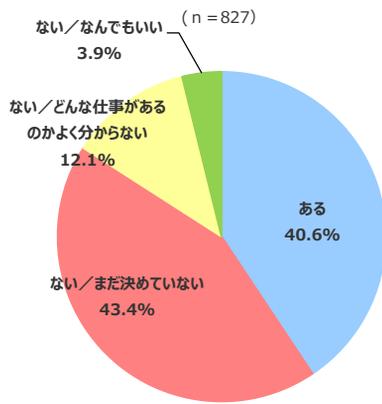
将来の夢はあるか

中学校1-3年生の子供に、将来なりたい職業があるかを聞くと、「ある」と回答した子供は40.6%だった（図22.1）。子供の性別で見ると、女子の方が「ある」と回答した割合が大幅に高い（図22.2）。

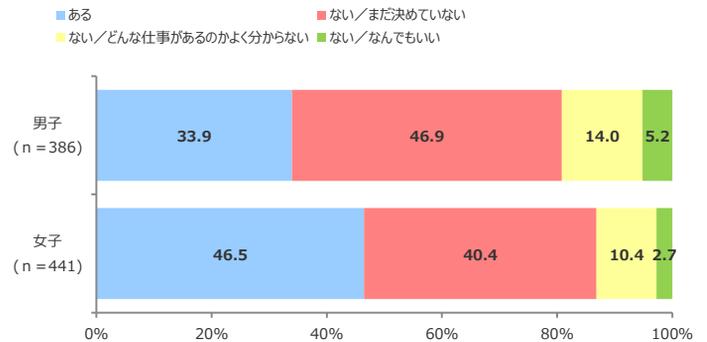
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親または母親の働く姿を「見たことがある」家庭の子供は、「見たことがない」家庭の子供よりも将来なりたい職業が「ある」割合が約10ポイント高くなっていた（図22.3、図22.4）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親または母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「充実してない」家庭の子供よりも将来なりたい職業が「ある」割合が高くなっていた（図22.5、図22.6）。

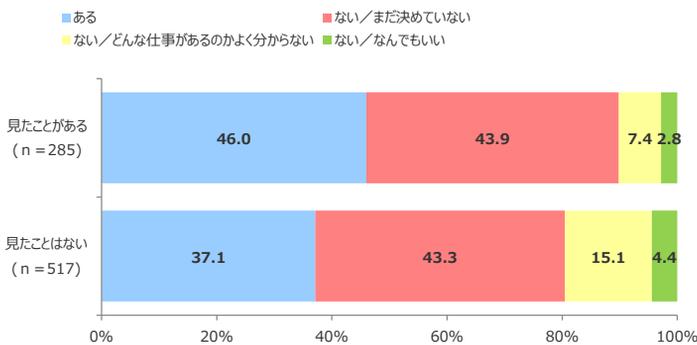
【図22.1】 将来なりたい職業はあるか



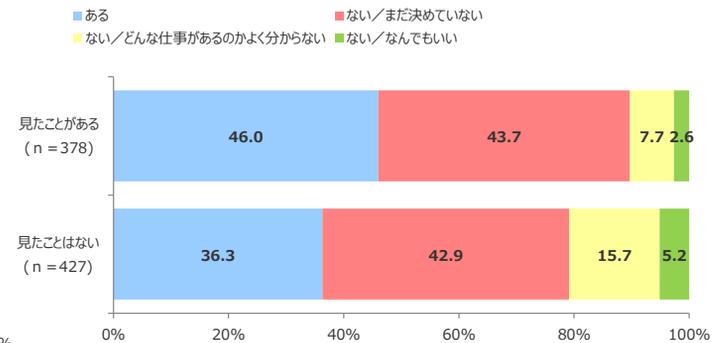
【図22.2】 将来なりたい職業はあるか：子供性別



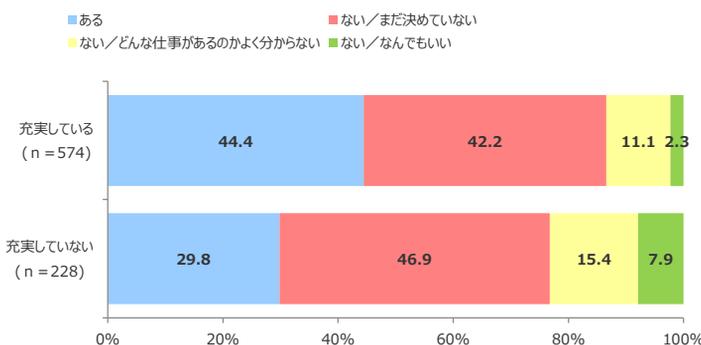
【図22.3】 将来なりたい職業はあるか：父親の働く姿を見たことがあるか別



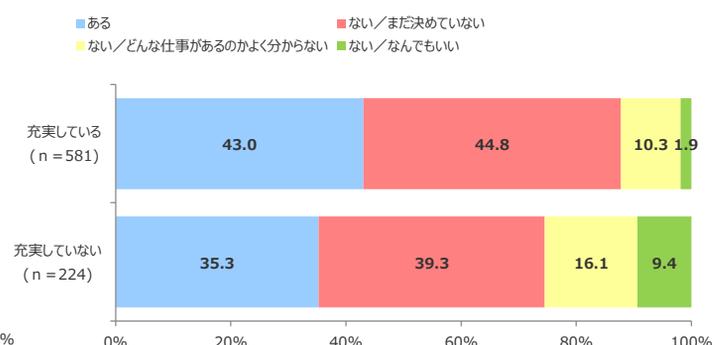
【図22.4】 将来なりたい職業はあるか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図22.5】 将来なりたい職業はあるか：父親の仕事の充実度別



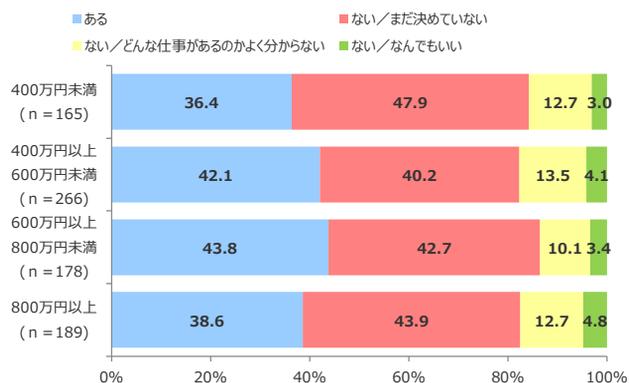
【図22.6】 将来なりたい職業はあるか：母親の仕事の充実度別



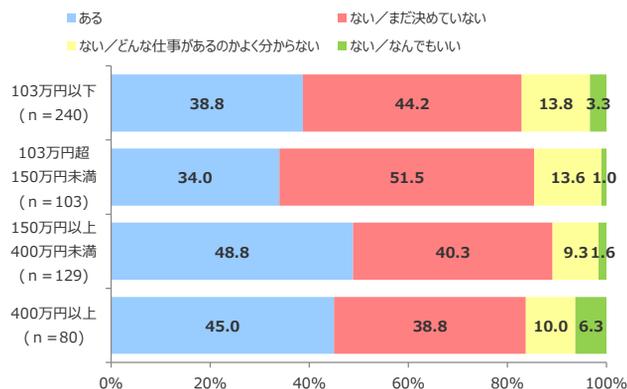
「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が「600万円以上800万円未満」の場合に、将来なりたい職業が「ある」割合が43.8%と最も高くなる（図22.7）。一方、母親の年収では、150万円以上を境に将来なりたい職業が「ある」割合が5割近くに上っている（図22.8）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見た。男女とも子供との会話時間が「30分未満」だと、将来なりたい職業が「ある」割合が大幅に低くなっていた（図22.9、図22.10、図22.11、図22.12、図22.13）。

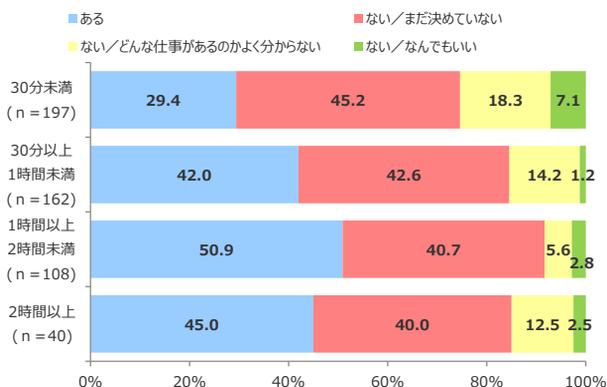
【図22.7】 将来なりたい職業はあるか：父親の年収別



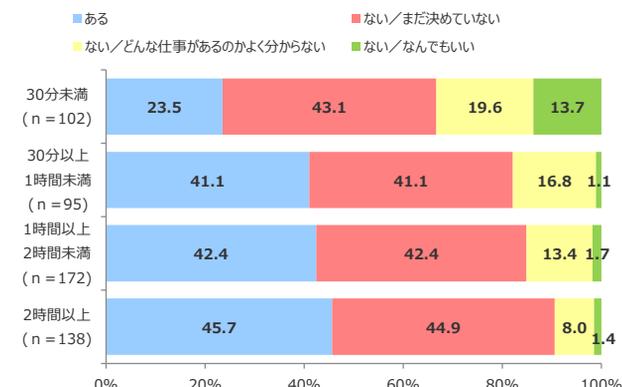
【図22.8】 将来なりたい職業はあるか：母親の年収別



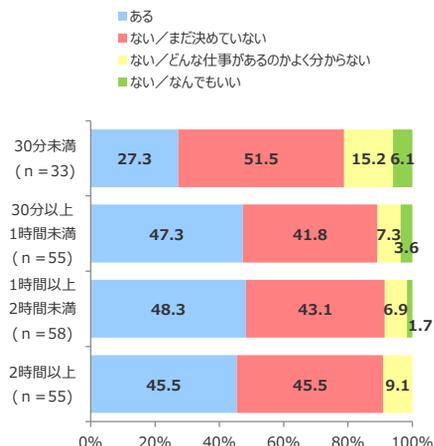
【図22.9】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



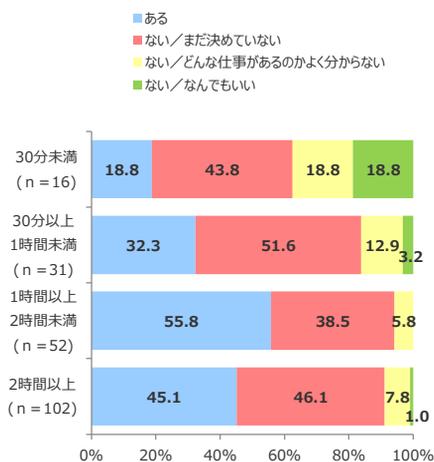
【図22.10】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



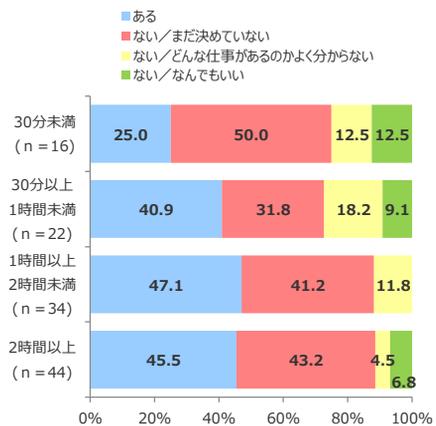
【図22.11】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図22.12】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図22.13】 将来なりたい職業はあるか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別

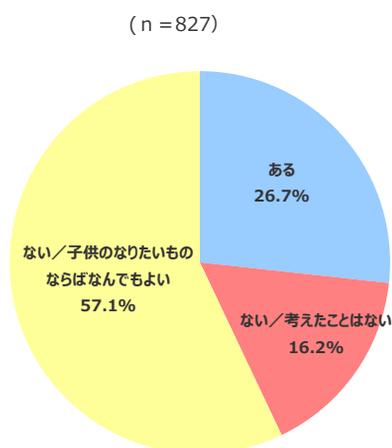


子供に将来なってもらいたい職業はあるか

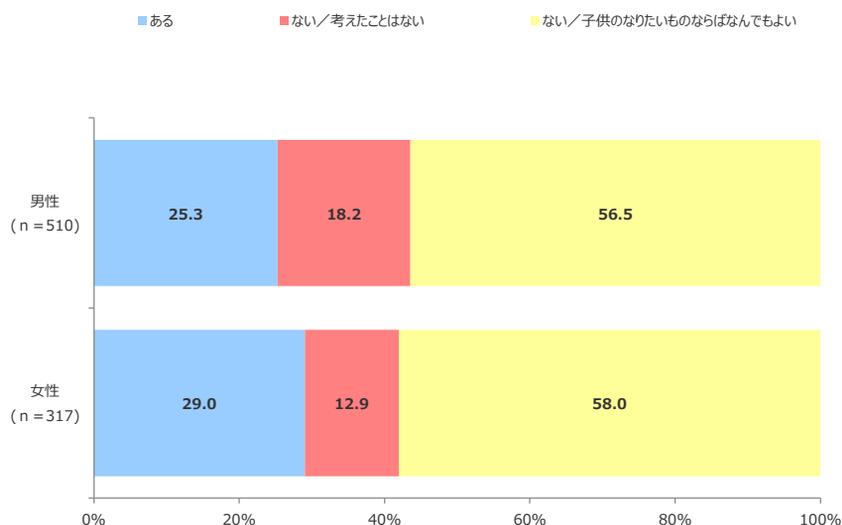
中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供に将来なってもらいたい職業はあるか聞いた。「ない/子供のなりたいものならばなんでもよい」と考える親が57.1%を占めていた。一方、「ある」と回答した親も26.7%いた（図23.1）。

大人の性別で見ると、「ある」の割合は男性よりも女性の方がやや高い。さらに、「ない/考えたことはない」は、男性が18.2%なのに対し、女性は12.9%と低いことから、母親の立場である女性の方が子供の将来について気にかけていることがうかがえる（図23.2）。

【図23.1】子供に将来なってもらいたい職業はあるか



【図23.2】子供に将来なってもらいたい職業はあるか：大人性別



将来なりたい職業

将来なりたい職業が「ある」と回答した中学校1-3年生の男子に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。順位を見ると、1位「サッカー選手」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「医者」「教師（小学校、中学校、高等学校）」となった（表24.1）。

将来なりたい職業が「ある」と回答した中学校1-3年生の女子に、職業リストの中から、あてはまるものを選んでもらった。順位を見ると、1位「看護師」、2位「医者」、3位「保育士・幼稚園教諭」となっている（表24.2）。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表24.1】将来なりたい職業はあるか：男子ランキング上位

NO	男子ランキング (n=131)	(%)
1	サッカー選手	8.4
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	6.1
3	医者 教師 (小学校、中学校、高等学校)	5.3
5	学者・研究者 運転手／車掌 (車、バス、電車、新幹線等)	3.8
7	野球選手 バasketボール選手 システムエンジニア・プログラマー ゲームクリエイター 整備士・機械エンジニア	3.1

【表24.2】将来なりたい職業はあるか：女子ランキング上位

NO	女子ランキング (n=205)	(%)
1	看護師	9.3
2	医者	8.3
3	保育士・幼稚園教諭	7.3
4	教師 (小学校、中学校、高等学校)	6.3
5	薬剤師	5.9
6	漫画家・イラストレーター	4.4
7	ケーキ屋・パティシエール	3.9
8	獣医	2.9
9	声優	2.4

子供に将来なってほしい職業

子供に将来なってほしい職業が「ある」と回答した者に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。

順位を見ると、1位「医者」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「薬剤師」、4位「看護師」、5位「会社員（事務系）※銀行員・金融関連職除く」となっている（表25）。

「子供調査：将来なりたい職業はあるか」と比較すると、「医者」や「公務員」「看護師」など子供のランキングと共通の職業もあるものの、「会社員」など、より現実的な職業を望んでいる親もいるようだ。

【表25】子供に将来なってほしい職業：ランキング上位

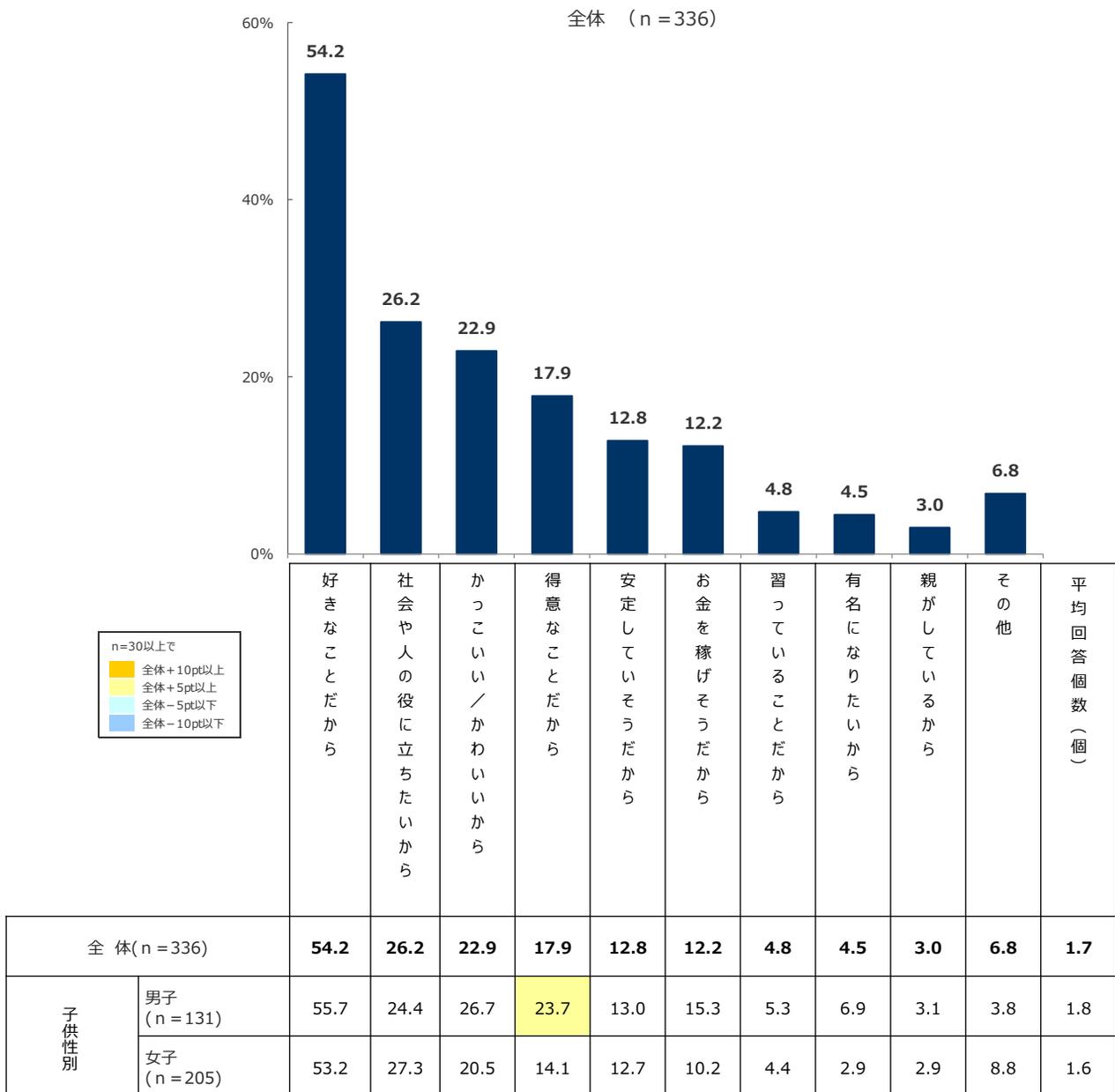
NO	親ランキング (n=221)	(%)
1	医者	12.2
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	10.9
3	薬剤師	9.0
4	看護師	5.9
5	会社員（事務系） ※銀行員・金融関連職除く	3.6
6	弁護士・検事・裁判官	3.2
7	教師 (小学校、中学校、高等学校)	2.7
8	経営者	2.3
9	俳優・女優 銀行員・金融関連職	1.8

将来その職業になりたい理由

将来なりたい職業が「ある」と回答した中学校1-3年生の子供に、なぜその職業に就きたいのか理由を聞くと、1位「好きなことだから」54.2%、2位「社会や人の役に立ちたいから」26.2%、3位「カッコいい/かわいいから」22.9%だった。

子供の性別で見ると、男子は女子よりも「得意なことだから」が9.6ポイント、「カッコいい/かわいいから」が6.2ポイント、「お金を稼げそうだから」が5.1ポイント高くなっており、性別によってモチベーションも異なっている（図26）。

【図26】 その職業に将来なりたいと思う理由



将来なりたい職業に就くための努力

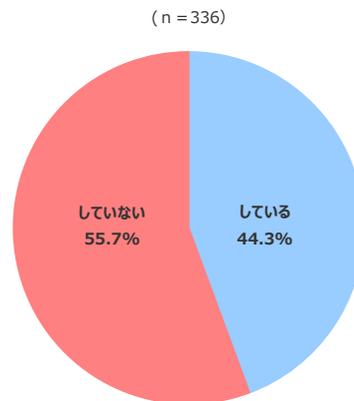
将来なりたい職業が「ある」と回答した中学校1-3年生の子供に、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力をしているかを聞くと、44.3%の子供が「している」と回答した（図27.1）。

子供の性別で見ると、男女で差は見られなかった（図27.2）。

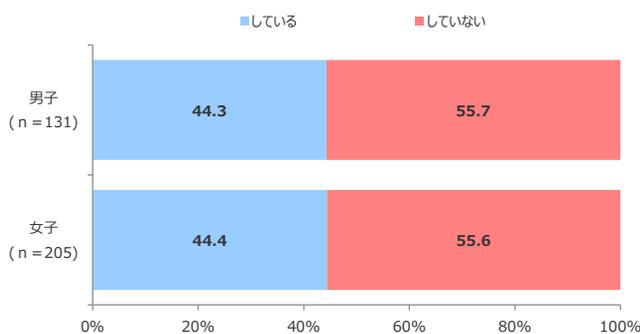
「子供調査：将来働くことは楽しみか」との関係を見ると、将来働くことを「楽しみ（どちらかと言えば含む）」に感じている子供は、そうでない子供よりも将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力を「している」割合が大幅に高くなっていた（図27.3）。

「子供調査：働く父親への憧れ」「子供調査：働く母親への憧れ」との関係を見た。父親および母親に対して「あんな大人になりたい（どちらかと言えば含む）」と感じている子供において、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力を「している」割合が最も高くなっていた（図27.4、図27.5）。

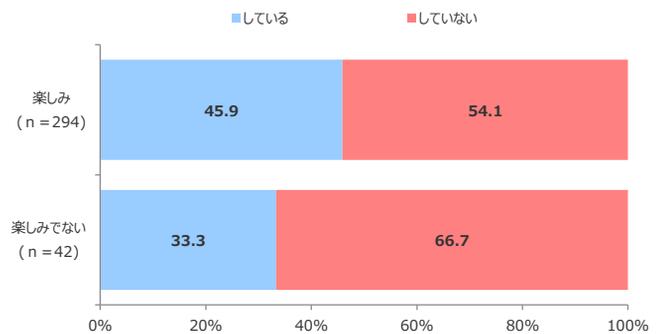
【図27.1】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか



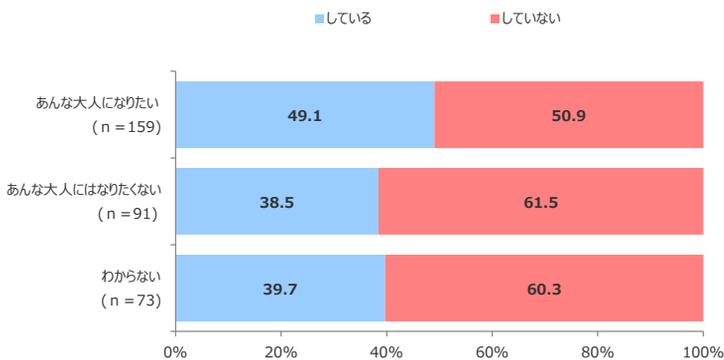
【図27.2】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：子供性別



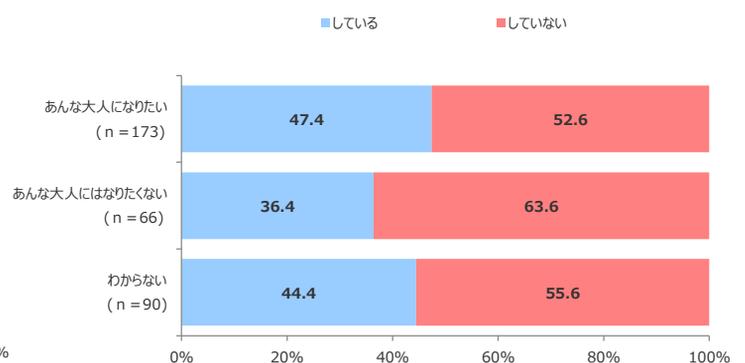
【図27.3】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：将来働くことが楽しみか別



【図27.4】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：父親への憧れ別

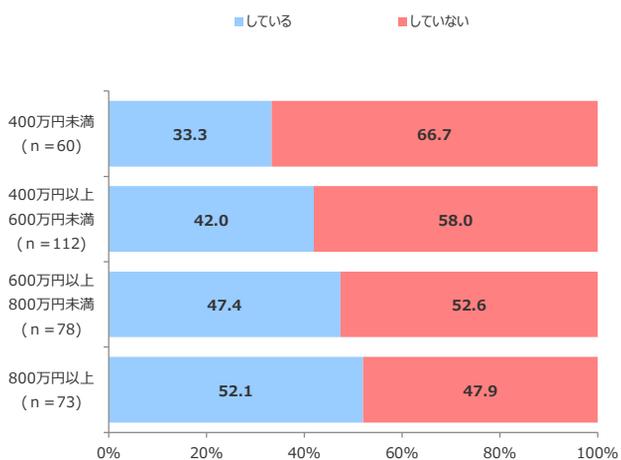


【図27.5】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：母親への憧れ別

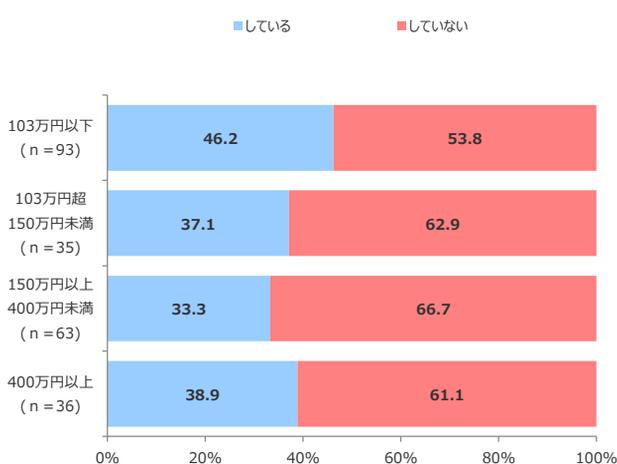


「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が上がるにつれ、将来のための工夫や努力を「している」子供の割合が高くなっていった。「400万円未満」と「800万円以上」では、20ポイント近い差が生じていた（図27.6）。母親の年収では、「103万円以下」の家庭において、将来のための工夫や努力をしている子供の割合が高くなっていった（図27.7）。

【図27.6】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：父親の年収別



【図27.7】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：母親の年収別



【自由回答の一部】

- 母親が看護師の仕事をしているので、仕事のことや看護学校のことなどを調べたりしている。(中1女子 看護師)
- 父が毎月購入してる建築雑誌を全て読んでいる。(中1女子 建築士)
- 学校での勉強を頑張り、規則正しい生活を心がける。(中1女子 警察官)
- 想像力を膨らませて物語を書いたり、読書をしたりする。(中1女子 ゲームクリエイター)
- 好きなアーティストのコンサートへ行く、東京で買い物をする、イベントに参加する。(中2女子 ファッションスタイリスト)
- ジムに通い大会結果を残している。(中3男子 その他スポーツ選手)

家庭で行っているキャリア教育

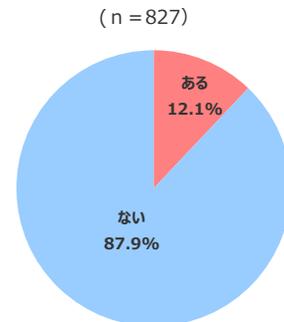
中学校1-3年生の子供がいる男女に、キャリア教育として家庭で意識して行なっていることはあるか聞いた。「ある」と回答した家庭は12.1%だった(図28.1)。

「子供調査：将来の夢はあるか」との関係を見ると、将来の夢が「ある」と回答した子供の家庭では、親がキャリア教育を意識して行なっていることが「ある」割合が17.3%と、将来の夢が「ない」子供の家庭の2倍以上高くなっていた(図28.2)。

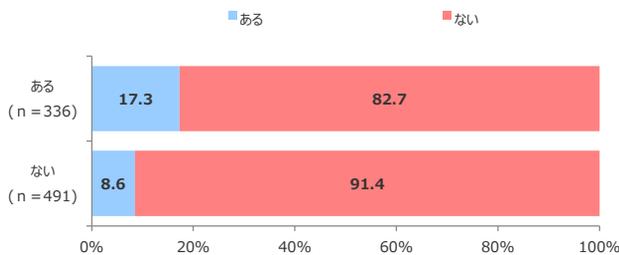
親の性別で見ると、女性の方がキャリア教育として家庭で意識して行なっていることが「ある」割合が高い(図28.3)。

就労状況別に見ると、父親の場合は、「正社員/自営業・個人事業主」「非正規雇用」の順に「ある」の割合が高くなっていたが(図28.4)、母親は働き方で大きな差はなく、一定の割合となっていた(図28.5)。

【図28.1】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか



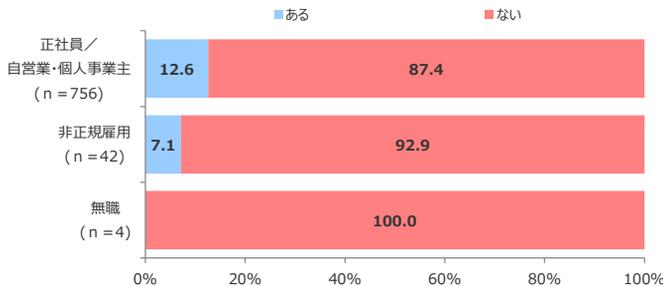
【図28.2】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか：将来の夢はあるか別



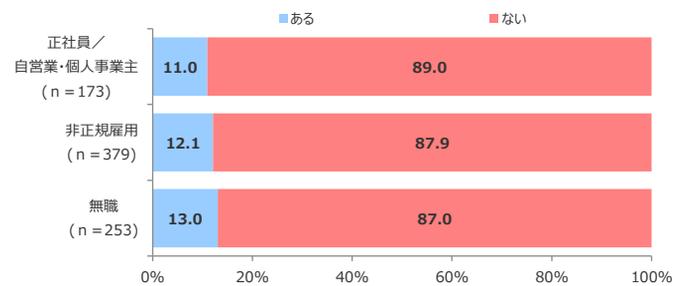
【図28.3】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか：大人性別



【図28.4】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか：父親の就労状況別



【図28.5】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか：母親の就労状況別



【自由回答の一部】

- 時事ニュースをできるだけ見せて意見を言い合うようにしている。
- 視野を広げるために有益な情報番組と一緒に見るようにしたり、都心のビジネス街に行き説明したりしている。
- 定期的にミーティングを行い、本人が何を関心を持ち、何を感しながら過ごしているかを聞く場になっている。
- 本人が嫌な思いをしても、会話をし、少しでも本人の気持ちや思いを話させるようにしている。
- 人の嫌がる仕事をしなさい、挨拶をしなさいと教えている。
- 本は金額の制限なしに欲しがれば買う、映画を観に行く、博物館に行く、コンサート・ライブに行く。
- 子供が興味を持った職業について、インターネットを使ってなるべく具体的に話をしている。
- 工場見学や体験学習のできる場所は、幼児期から色々連れて行った。
- 何でも良いから興味を持つこと。偏らずに色々な情報を提供したり、アドバイスすること。
- 一人でも生きて行けるように、自立できるように家の事(洗濯、掃除、ご飯作り、お金の管理)はすべてできるように小さい時から楽しく教えていました。

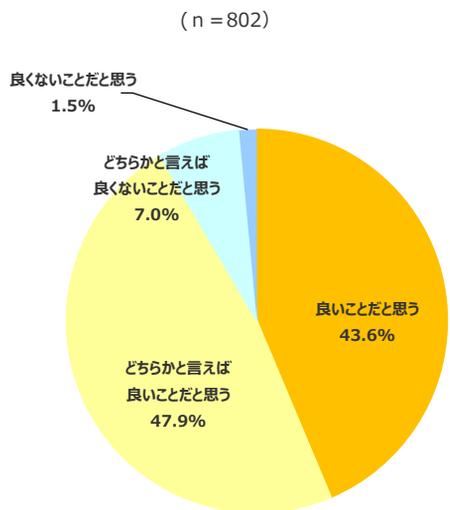
親の働く姿を見せることの是非

中学校1-3年生の子供がいる男女に、子供に親の働く姿を見せることは良いことだと思うかを聞いた。

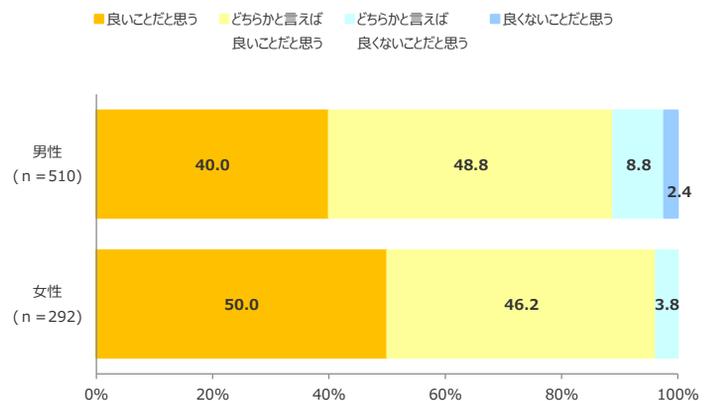
子供に、父親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が43.6%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が47.9%で合わせて91.5%が肯定的に捉えていた（図29.1）。親の性別で見ると「良いことだと思う」の割合は男性40.0%、女性50.0%と女性の方が10ポイント高くなっており、母親である女性の方が子供に父親の背中を見せることについてより強い肯定感がある（図29.2）。

子供に母親の働く姿を見せることについては、「良いことだと思う」44.2%、「どちらかと言えば良いことだと思う」47.7%で、肯定的な意見が計91.9%に上った（図29.3）。親の性別では、父親の場合と同様に女性の方が「良いことだと思う」の回答割合が高くなっていった。しかし、その差は5.1ポイントと父親の働く姿の場合より小さくなっている（図29.4）。

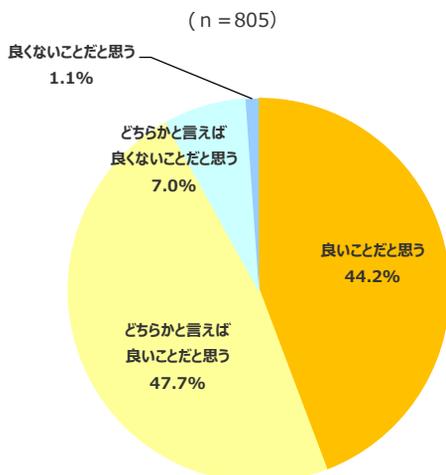
【図29.1】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.2】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



【図29.3】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.4】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別

